

2020年度

(令和2年度)

事業報告書

2020年4月1日～2021年3月31日

学校法人 桐朋学園

目 次

I 法人の概要

1 基本情報	1
2 建学の精神	1
3 学校法人の沿革	2
4 設置する学校・学部・学科等	3
5 学校・学部・学科等の学生等数の状況	3
6 収容定員充足率	4
7 役員の概要	4
8 評議員の概要	5
9 教職員の概要	6

II 事業の概要

1 主な教育・研究の概要	7
2 中期的な計画について	10
3 事業総括、主な事業計画及び進捗状況	
(1) 法人	13
(2) 男子部門	15
(3) 女子部門	20
(4) 音楽部門	26
(5) 法人本部	29
4 その他	
(1) 施設設備	30
(2) 学費及び補助金等	32
(3) 入学試験結果	34
(4) 教職員研究研修	36

III 財務の概要

1 決算の概要	
(1) 貸借対照表	38
(2) 資金収支計算書	39
(3) 事業活動収支計算書	41
2 主な収入の推移	
(1) 学生生徒等納付金収入	42
(2) 入学検定料収入	42
(3) 補助金収入	43
3 その他	
(1) 有価証券の状況	45
(2) 借入金の状況	45
(3) 学校債の状況	45
(4) 寄付金の状況	45
(5) 関連当事者との取引の状況	46
4 経営上の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応	
(1) 男子部門	46
(2) 女子部門	46
(3) 音楽部門	46

I 法人の概要

1 基本情報

(1) 法人の名称

学校法人 桐朋学園

(2) 主たる事務所

住所 〒182-8510 東京都調布市若葉町 1-41-1

電話番号 03-3300-2458

FAX番号 03-3300-2459

ホームページアドレス <https://www.toho-gakuen.com>

2 建学の精神

桐朋学園は、国立市にある男子部門、調布市仙川にある女子部門、そして同じく仙川、調布及び富山市の計3つのキャンパスを持つ音楽部門の、3つの部門から成り立っています。

男子部門には、桐朋学園小学校（共学）、桐朋中学校（男子）、桐朋高等学校（男子）があります。

女子部門には、桐朋幼稚園、桐朋小学校（共学）、桐朋女子中学校、桐朋女子高等学校普通科、桐朋学園芸術短期大学があります。

音楽部門は、桐朋学園大学と桐朋女子高等学校内に音楽科（共学）を持ち、附属教育機関として全国各地に「子供のための音楽教室」を開いています。そして富山市には、桐朋学園大学院大学と桐朋オーケストラ・アカデミーがあります。

3つの部門に共通している建学の精神は、「一人ひとりの人格を尊重し、自主性を養い、個性を伸長するというヒューマニズムに立つ、『人間教育』」です。各学校の教育目標は、下記のとおりです。

(1) 男子部門

桐朋学園小学校

「基礎学力を充実する」「心身を鍛える」「情操を培う」

桐朋中学校・桐朋高等学校

『『自主』『敬愛』『勤労』を教育目標として、民主的な社会の担い手としてふさわしい自主性と協調性に富む人格の形成」

(2) 女子部門

桐朋幼稚園

「一人ひとりの、幸せな子ども時代のために」「生きるために必要な根を育てます」

桐朋小学校

「子ども一人ひとりを原点に」

「自分自身の人生の主人公に、そして社会のつくり手となりゆくための根っこを育てる」

桐朋女子中学校・桐朋女子高等学校普通科

「こころの健康 からだの健康」「論理的思考力を鍛え、過程を重視する」

桐朋学園芸術短期大学

「現代社会における芸術文化の創造と発展に寄与する人材の育成」

(3) 音楽部門

桐朋学園大学

桐朋学園大学大学院

桐朋女子高等学校音楽科

「自由で豊かな感性を持つ個性ある音楽家の育成」

「音楽教育による社会貢献」

「世界における音楽文化の創造」

桐朋学園大学附属子供のための音楽教室

「音楽の早期・正規教育 聴音教育による音感やリズム感の育成」

「理論や知識のシステムチックな教育」

「音楽スタイルの理解とその実践」

「個人演奏に加え、合唱・合奏の重視」

桐朋学園大学院大学

「演奏の様式性の獲得」

「感性教育の実践」

「音楽表現の無限の多様性を感受し、表現することのできる教養ある音楽家の育成」

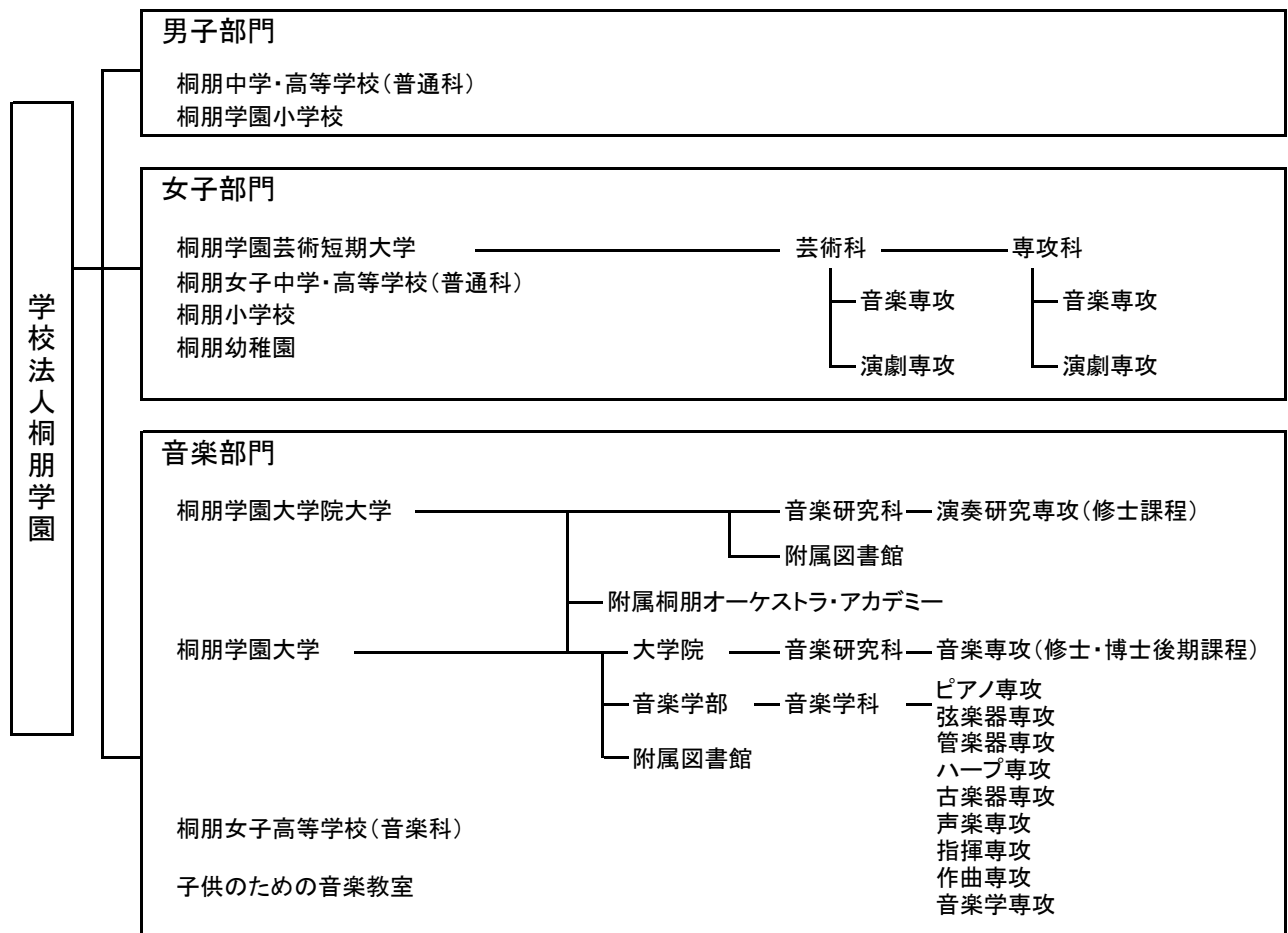
桐朋オーケストラ・アカデミー

「学園設立以来、培ってきた合奏教育をより高度に発展させる実践の場」

3 学校法人の沿革

昭和 15 年 11 月 7 日	財団法人山水育英会認可
昭和 16 年 3 月 4 日	財団法人山水中学校設立認可(国立:第一山水中学校、大阪:第二山水中学校。尚、第二山水中学校は昭和21年12月1日に分離)
昭和 16 年 3 月 20 日	財団法人山水高等女学校設立認可
昭和 22 年 3 月 31 日	財団法人山水中学校・財団法人山水高等女学校解散認可
昭和 22 年 4 月 1 日	財団法人桐朋学園設立、桐朋第一中学校・桐朋第二中学校設置認可
昭和 23 年 3 月 10 日	桐朋高等学校・桐朋女子高等学校設置認可。 桐朋第一中学校を桐朋中学校に、桐朋第二中学校は女子中学校に名称変更
昭和 23 年 10 月 1 日	子供のための音楽教室設置(於市ヶ谷家政学院)
昭和 26 年 3 月 5 日	財団法人桐朋学園を学校法人桐朋学園に組織変更認可(昭和26年1月25日東京都より認可)
昭和 27 年 3 月 20 日	桐朋女子高等学校音楽科増設認可
昭和 29 年 12 月 1 日	桐朋小学校・桐朋幼稚園設置認可
昭和 30 年 2 月 1 日	桐朋学園短期大学音楽科設置認可
昭和 33 年 11 月 12 日	桐朋学園小学校設置認可
昭和 36 年 3 月 31 日	桐朋学園大学音楽学部(演奏学科・作曲理論学科)設置認可
昭和 38 年 3 月 30 日	桐朋学園短期大学音楽科廃止認可
昭和 39 年 1 月 25 日	桐朋学園大学短期大学部文科・音楽科設置認可
昭和 41 年 1 月 25 日	桐朋学園大学短期大学部芸術科(音楽専攻・演劇専攻)設置認可
昭和 41 年 12 月 26 日	桐朋学園大学音楽学部学生入学定員変更受理
昭和 42 年 1 月 18 日	桐朋学園大学短期大学部学生入学定員変更受理
昭和 42 年 12 月 28 日	桐朋学園大学短期大学部専攻科演劇専攻設置受理
昭和 43 年 3 月 30 日	桐朋学園大学短期大学部音楽科廃止認可
平成 5 年 12 月 21 日	桐朋学園大学短期大学部専攻科音楽専攻・地域文化研究専攻設置受理
平成 7 年 9 月 1 日	桐朋学園大学音楽学部附属桐朋オーケストラ・アカデミー設置
平成 10 年 12 月 22 日	桐朋学園大学院大学音楽研究科演奏研究専攻設置認可
平成 11 年 7 月 28 日	桐朋学園大学短期大学部の期間を付した入学定員の廃止に伴う収容定員の増加認可
平成 16 年 3 月 31 日	桐朋学園大学短期大学部を桐朋学園芸術短期大学に名称変更受理
平成 16 年 3 月 31 日	桐朋学園芸術短期大学芸術科ステージ・クリエイト専攻設置受理
平成 17 年 4 月 28 日	桐朋学園大学音楽学部音楽学科設置受理
平成 17 年 7 月 29 日	桐朋学園大学音楽学部音楽学科収容定員変更認可
平成 17 年 9 月 27 日	桐朋学園芸術短期大学文科廃止受理
平成 17 年 12 月 1 日	桐朋学園芸術短期大学専攻科ステージ・クリエイト専攻設置受理
平成 18 年 3 月 30 日	桐朋学園芸術短期大学専攻科地域文化研究専攻廃止受理
平成 24 年 5 月 1 日	桐朋学園大学音楽学部演奏学科、作曲理論学科廃止受理
平成 26 年 3 月 31 日	桐朋学園芸術短期大学芸術科ステージ・クリエイト専攻廃止受理
平成 26 年 3 月 31 日	桐朋学園芸術短期大学専攻科ステージ・クリエイト専攻廃止受理
平成 27 年 8 月 31 日	桐朋学園大学音楽学部音楽学科定員変更認可
平成 28 年 8 月 31 日	桐朋学園大学大学院音楽研究科設置認可

4 設置する学校・学部・学科等



5 学校・学部・学科等の学生等数の状況

(2020年5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名等	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	収容定員	現員数
桐朋学園大学院大学	音楽研究科演奏研究専攻 修士課程	10	12	12	9	8	20	20
桐朋学園大学	大学院							
	音楽研究科修士課程	45	69	68	64	63	75	112
	音楽研究科博士後期課程	3	4	4	1	1	9	8
	音楽学部 音楽学科	180	192	187	182	167	720	665
桐朋学園芸術短期大学	芸術科	120	174	170	128	120	240	243
桐朋高等学校	全日制課程 普通科	350	505	496	434	334	1,050	965
桐朋女子高等学校	全日制課程 普通科	350	199	199	198	182	1,050	513
	音楽科	100	67	66	64	63	300	164
桐朋中学校		300	1,153	906	474	276	900	797
桐朋女子中学校		300	385	271	243	157	900	465
桐朋学園小学校		80	602	479	108	72	480	429
桐朋小学校		80	412	349	108	72	480	433
桐朋幼稚園		26	73	70	30	26	80	77
総計		1,944	3,847	3,277	2,043	1,541	6,304	4,891

6 収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名等	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
桐朋学園大学院大学	音楽研究科演奏研究専攻 修士課程	1.10	1.05	1.00	1.00	0.95
桐朋学園大学	大学院 音楽研究科	0.86	1.47	1.49	1.42	1.53
	音楽学部 音楽学科	1.13	1.03	0.94	0.92	0.93
桐朋学園芸術短期大学	芸術科	1.16	1.07	1.00	1.01	0.97
桐朋高等学校	全日制課程 普通科	0.92	0.92	0.91	0.91	0.90
桐朋女子高等学校	全日制課程 普通科	0.68	0.60	0.52	0.48	0.46
	音楽科	0.66	0.60	0.52	0.54	0.53
桐朋中学校		0.87	0.86	0.87	0.88	0.89
桐朋女子中学校		0.60	0.57	0.54	0.51	0.54
桐朋学園小学校		0.89	0.89	0.90	0.89	0.89
桐朋小学校		0.90	0.89	0.90	0.90	0.90
桐朋幼稚園		0.82	1.00	1.00	0.98	0.98

7 役員の概要

理事：定数 13～15人 現員 14人 監事：定数2～4人 現員 2人

(2021年6月1日現在)

	氏名	就任年月日 (直近重任日)	常勤・非常勤 の別	主な現職等
* 理事	河原 勇人	2010.4.1 (2019.4.1)	常勤	理事長、元桐朋女子中学・高等学校長
* 理事	原口 大助	2021.4.1	常勤	桐朋学園小学校長・桐朋中学・高等学校長
* 理事	今野 淳一	2019.4.1	常勤	桐朋女子中学・高等学校長
* 理事	梅津 時比古	2013.4.1 (2019.4.1)	常勤	桐朋学園大学・桐朋学園大学院大学長
* 理事	鈴木 正義	2017.4.1 (2019.4.1)	常勤	桐朋中学校・桐朋高等学校教諭
* 理事	高橋 博之	2016.4.1 (2019.4.1)	常勤	桐朋学園女子部門事務職員
* 理事	長瀬 浩平	2019.4.1	常勤	桐朋学園大学教授、上智大学非常勤講師
※ 理事	矢島 基美	2016.4.1 (2019.4.1)	非常勤	上智大学教授
※ 理事	三浦 雅士	2020.4.1	非常勤	日本文藝家協会理事、サントリー文化財団理事、日本芸術院会員
※ 理事	薄井 紀子	2016.4.1 (2019.4.1)	非常勤	東京慈恵会医科大学客員教授
※ 理事	羽原 清雅	2008.11.1 (2019.4.1)	非常勤	元新宿区教育委員
※ 理事	垣添 忠生	2010.4.1 (2019.4.1)	非常勤	国立がんセンター名誉総長、日本対がん協会会長、日本学士院会員
※ 理事	関口 榮司	2018.4.1 (2021.4.1)	非常勤	保隣教育財団理事、前保善高等学校校長
※ 理事	片岡 哲郎	2021.4.1	非常勤	開智望小学校・中等教育学校理事長代理、前桐朋学園小学校長・桐朋中学・高等学校長
※ 監事	伊藤 昌毅	2016.4.1 (2019.4.1)	非常勤	弁護士
※ 監事	関口 恭三	2018.4.1 (2021.4.1)	非常勤	公認会計士

- ・業務執行・非業務執行の別…*が業務執行理事
- ・責任限定契約の内容の概要

本法人は、私立学校法第44条の2で準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第115条の規定により、上記※の役員との間に、同法第44条の2の役員の責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく責任の限度額は、寄附行為であらかじめ定めた額と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額としております。

- ・補償契約・役員賠償責任保険契約の状況
- 締結の事実はありません。

8 評議員の概要

定数 34～37人 *は理事兼任者14人
現員 35人

(2021年6月1日現在)

氏 名	就任年月日 (直近重任日)	主な現職等
後藤 恭子	2018. 4. 1 (2019. 4. 1)	桐朋学園小学校教諭
村野 英治	2019. 4. 1	桐朋中学・高等学校教諭
小野島 正道	2020. 4. 1	桐朋中学・高等学校教諭
土舘 智子	2021. 4. 1	桐朋学園男子部門総務課長
佐久間 彩子	2016. 4. 1	桐朋小学校教諭
中野 浄	2019. 4. 1	桐朋女子中学・高等学校教諭
安宅 りさ子	2011. 4. 1 (2019. 4. 1)	桐朋学園芸術短期大学教授
大槻 清美	2016. 4. 1 (2019. 4. 1)	桐朋学園女子部門総務課長兼経理課長
合田 香	2019. 4. 1	桐朋学園大学専任講師
中井 恒仁	2020. 4. 1	桐朋学園大学教授
小森谷 泉	2015. 4. 1 (2019. 4. 1)	桐朋学園大学教授
鶴岡 純子	2019. 4. 1	桐朋学園音楽部門事務職員
津澤 絵理	2019. 4. 1	桐朋学園法人本部事務職員
生江 隆之	2013. 4. 1 (2019. 4. 1)	桐朋中学・高等学校同窓会長
橋田 伸子	2018. 6. 23 (2019. 4. 1)	桐朋女子中学・高等学校同窓会長
二宮 和子	2010. 4. 20 (2019. 4. 1)	桐朋学園音楽部門同窓会長
* 原口 大助	2021. 4. 1	桐朋学園小学校長・桐朋中学・高等学校長
* 今野 淳一	2019. 4. 1	桐朋女子中学・高等学校長
* 梅津 時比古	2013. 4. 1 (2019. 4. 1)	桐朋学園大学・桐朋学園大学院大学長
* 鈴木 正義	2017. 4. 1 (2019. 4. 1)	桐朋中学校・桐朋高等学校教諭
* 高橋 博之	2016. 4. 1 (2019. 4. 1)	桐朋学園女子部門事務職員
* 長瀬 浩平	2019. 4. 1	桐朋学園大学教授、上智大学非常勤講師
* 河原 勇人	2010. 4. 1 (2019. 4. 1)	理事長、元桐朋女子中学・高等学校長
* 羽原 清雅	2008. 11. 1 (2019. 4. 1)	元新宿区教育委員
* 垣添 忠生	2010. 4. 1 (2019. 4. 1)	国立がんセンター名誉総長、日本対がん協会会長、日本学士院会員
* 関口 榮司	2018. 4. 1 (2021. 4. 1)	保隣教育財団理事、前保善高等学校長
* 片岡 哲郎	2021. 4. 1	開智望小学校・中等教育学校理事長代理、前桐朋学園小学校長・桐朋中学・高等学校長
* 三浦 雅士	2020. 4. 1	日本文藝家協会理事、サントリー文化財団理事、日本芸術院会員
* 矢島 基美	2016. 4. 1 (2019. 4. 1)	上智大学教授
* 薄井 紀子	2016. 4. 1 (2019. 4. 1)	東京慈恵会医科大学客員教授
秋山 仁志	2019. 4. 1	桐朋中学・高等学校PTA会長、日本歯科大学附属病院総合診療科教授
小林 純	2017. 5. 24 (2019. 4. 1)	桐朋女子中学・高等学校PTA会長、RE FACTORY株式会社代表取締役
木下 晶	2017. 4. 1 (2020. 4. 1)	富山県芸術文化協会会長
井上 淳子	2021. 4. 1	井上学園理事長、鶏鳴幼稚園園長
首藤 波津子	2017. 4. 1 (2020. 4. 1)	スポーツネットワークジャパン理事長

9 教職員の概要

(2021年6月1日現在)

部門	学校名	本務		兼務	
		教員	職員	教員	職員
男子部門	桐朋高等学校	48	9	13	12
	桐朋中学校	34	7	17	8
	桐朋学園小学校	23	0	4	10
	計	105	* 1 16	34	30
	平均年齢	44. 6	36. 1	47. 9	48. 1
女子部門	桐朋学園芸術短期大学	20	8	147	3
	桐朋女子高等学校普通科	41	14	41	13
	桐朋女子中学校	29	2	27	10
	桐朋小学校	25	2	9	16
	桐朋幼稚園	5	0	1	3
	計	* 2 120	26	225	45
	平均年齢	45. 5	45. 7	50. 7	52. 0
音楽部門	桐朋学園大学院大学	6	5	4	0
	桐朋学園大学・大学院	44	20	399	42
	桐朋女子高等学校音楽科	9	5	21	0
	桐朋オーケストラ・アカデミー	0	0	0	2
	子供のための音楽教室	0	0	383	9
	計	59	30	* 3 807	53
	平均年齢	54. 7	42. 3	47. 9	44. 7
法人本部			3		1
	平均年齢		50. 3		26. 0
総計		284	75	1, 066	129

* 1 外国語指導助手(ALT)を含む。

* 2 特任教授、代替教員を含む。

* 3 非常勤講師の他、嘱託演奏員、音楽教室研究員を含む。

Ⅱ 事業の概要

1 主な教育・研究の概要

桐朋学園大学院大学音楽研究科、桐朋学園大学音楽学部音楽学科及び大学院音楽研究科並びに桐朋学園芸術短期大学芸術科のポリシーは、以下の通りです。

(1) 桐朋学園大学院大学音楽研究科

①ディプロマ・ポリシー「修了認定・学位授与の方針」

- ・音楽表現の無限の多様性を感受し、表現することのできる教養ある音楽家として、国際的に貢献することができる能力を身につけた学生
- ・音楽芸術の分野で真のリーダーになれるよう研鑽を積み、世界の音楽文化に多大な貢献ができる能力を身につけた学生

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

- ・桐朋学園大学院大学のカリキュラム（教育課程）は、学生各個人の主体的な研究活動を活かしつつ、個々に専攻する楽器について、より高度な演奏技能を深めるとともに、作品創作研究を含む「重奏研究」「オーケストラとの協演によるコンチェルト実習」など、大学学部卒業後の研究にふさわしい多彩な内容となっている。とりわけ「重奏研究」においては、学生同士のペアのみならず、「指導教員との共演」による実技研究を特徴としており、多様な演奏様式と表現法が学修することができる。また、「作品分析」などの講座系の授業も実習系の科目に深く関連させながら、厳選されたプログラムによって、学生各個人の主体的研究が効果的に行われるように編成されている。

③アドミッション・ポリシー「入学者受入れの方針」

○桐朋学園大学院大学が求める学生像

桐朋学園大学院大学は、芸術行為・音楽実践の原点に立ち返り「演奏の様式性の獲得」と「感性教育の実践」を建学の精神とし、将来「音楽表現の無限の多様性を感受し、表現することのできる教養ある音楽家として、国際的に活躍することのできる者」を学生として受け入れている。

○入試の方法

桐朋学園大学院大学の教育理念・教育方針・教育内容を理解し、桐朋学園大学院大学における研究に必要な音楽的能力を有する者を、演奏実技試験及び研究計画書に基づく面接によって選抜している。

○入試課題

桐朋学園大学院大学は、音楽表現の無限の多様性を感受し、表現することのできる教養ある音楽家を育成し、国内はもとより、国際的にも活躍する人材の輩出を目指している。入学試験においては、顕在的、潜在的能力を有する者を「技術の到達度」、「表現力」、「感性」、「個性」などの観点を主眼としつつ、実技の能力のみに偏らず、大学院での具体的な研究計画を提出させ、総合的に桐朋学園大学院大学に受け入れるべき学生かどうかを判定している。

(2) 桐朋学園大学音楽学部音楽学科

①ディプロマ・ポリシー「卒業認定・学位授与の方針」

- ・深く専門教育を究めると同時に幅広い教養教育を修得、自由で豊かな感性を持つ個性ある学生
- ・現代の音楽社会のさまざまな課題に対処し解決する能力を身につけ社会に貢献できる学生
- ・演奏や創作、作品理解などについて卓越した能力を基礎に、専門の枠を超えて新しい音楽文化を創造できる学生

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

学生がより深く専門性を極めるとともに、多面的な音楽教養を育むことができるように、カリキュラムが組まれている。

- ・専攻科目とその他の授業科目との関連を重視し、それぞれの授業が専攻科目を中心に同心円の関係で取り囲むような授業を実現する。
- ・授業は、専攻科目、音楽基礎科目、音楽応用科目、語学・教養科目の四群に分かれる。
- ・専攻科目の拡充のために、一定のオーディションを経て「副専攻」を履修することができる。

③アドミッション・ポリシー「入学者受入れの方針」

- ・音楽表現に対する能力や意欲を有し、自己の目標を持っている者
- ・音楽文化に関する知識と技量を習得し、社会の発展に貢献する意思のある者
- ・音楽文化の領域を学ぶために必要な理解力・構想力を持っている者

(3) 桐朋学園大学大学院音楽研究科修士課程

①ディプロマ・ポリシー「修了認定・学位授与の方針」

音楽実践に不可欠な高度な能力を養い、自立した音楽活動を行うにあたって必要な能力を養うことを目的とする。

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

修士課程は音楽専攻のもとにピアノ、弦楽器、声楽、作曲、音楽学の5コースを置き、専攻としてのカリキュラム・ポリシーを以下の通り定める。

大学院音楽研究科は、音楽実践に不可欠な高度な能力を習得し、自立した音楽活動を行うにあたって必要な能力を養うことを目的とする。その目的のために、各コースの特質に適合した、以下の教育課程を編成している。修士課程は2年以上の在学期間に、コースごとに開設される実技あるいは実習・演習等を履修し、また、学術的研究を支える関連科目を所定の範囲で履修しなければならない。学位審査は、修了演奏および研究レポートの審査によって行われ、合格者は修士（音楽）の学位を授与される。学生がより深く専門性を極めるとともに、多面的な音楽教養を育むことができるように、カリキュラムが組まれている。

〈ピアノコース〉

学士教育をさらに発展させながら、高度な技術と豊かな芸術性を持ったピアニストを育成する。個人レッスンやアンサンブルにおけるグループごとの個別レッスンも多く用意し、総合演習などの授業と合わせて、芸術的感性と論理的な知性を深め、専門性の高い音楽家への道を導く。

〈弦楽器コース〉

学士教育をさらに発展させながら、より高度なレベルで演奏家としての能力を向上させる。そのために必要な実践的、理論的な専門性を持った研究を展開する。個人レッスンやアンサンブルにおけるグループごとの個別レッスン等も用意し、総合演習などの授業と合わせて、芸術的感性と論理的な知性を深め、専門性の高い音楽家への道を導く。

〈声楽コース〉

学士教育をさらに発展させながら、オペラ研究分野、歌曲研究分野を置き、高度な専門性を有した研究を実施するとともに、豊かな芸術性を育む。各自の研究分野について豊かな演奏実践を経験させるとともに、総合演習などの授業と合わせて、芸術的感性と論理的な知性を深め、専門性の高い音楽家への道を導く。

〈作曲コース〉

学士教育をさらに発展させながら、高度な作曲法の体得と現代を含む作曲家の作品の緻密な分析を展開し創作を発展に導く。作品発表も積極的にを行い実践においても更なる向上を目指す。

〈音楽学コース〉

学士教育をさらに発展させながら、現代にふさわしい多面的な視点と精緻な実証性を備えた研究を展開する。国際的な成果の達成に向けて、外国語及び日本語文献の精読を徹底するとともに、豊富な発表機会を設け、音楽大学ならではの芸術的感性と学者としての高度な論理性を両立させた専門性の高い音楽学者の道へと導く。

③アドミッション・ポリシー「入学者受入れの方針」

大学院修士課程は、高度に専門的かつ広汎な視野に立ち、音楽についての学識と技術をもった音楽の実践や教育を行う人材の養成を目的としている。この教育理念に基づき、音楽に関する見識、技術を有し、なおかつ幅広い視野から知的な関心や柔軟な感性を育むことのできる人材を求めている。

（４）桐朋学園大学大学院音楽研究科博士後期課程

①ディプロマ・ポリシー「修了認定・学位授与の方針」

修士課程等で修得した能力を基盤としながら、極めて高度な知識と卓越した技能を獲得し、音楽に関する学術的研究を自立的に行う能力、および音楽教育を発展させる指導者になり得る素養を身につけ、博士後期課程の修了要件を満たした者に博士の学位を授与する。

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

専門領域における極めて高度な知識、教養、見識及び卓越した技能を持って研究及び演奏を行う能力を獲得する。修了後には高等教育機関で教育や研究に従事するために必要な問題発見能力、課題解決能力、他の専門領域や他者の知見を理解しクリティカルに検証する能力を習得する。また、教育研究を持続的に推進する人材として、社会や文化に対する広い視野と高い見識を培う。

上記ポリシーの実現のために、ピアノ、弦楽器、声楽、作曲、音楽学の5つの研究領域を置き、各自の専門とする領域について学術研究を行う。年次ごとの研究指導のもとで作成する研究計画書に基づいて研究を計画的に実施するとともに、その成果を逐次まとめ、発表する。音楽作品、演奏様式等についての知識を深めるとともに、音楽研究に必要な様々な方法論を取得し、自らの研究の礎とする。また、討論や研究発表などを通じて積極的に問題提起を行い、研究成果のプレゼンテーションの技術も高めていく。最終的には、演奏を通じた実践的研究と学術的研究が一体化した統合的な研究を目指し、その成果として研究演奏及び博士論文の執筆と公表を義務づけている。

③アドミッション・ポリシー「入学者受入れの方針」

大学院博士後期課程は、専門領域、また広く音楽芸術全般に関する専門的な知識や技能を修得しており、さらに自らの研究課題に基づいて高度な研究を実施するための資質や意欲があり、実践、教育等において広く国際的な視野に立って音楽芸術を深く考究する資質や意欲がある人材を求めている。

(5) 桐朋学園芸術短期大学音楽専攻

①ディプロマ・ポリシー「卒業認定・学位授与の方針」

豊かな感性と知識を備えた音楽家になるため、学科の教育課程（教養科目および専攻科目）の学修を通して専門的学習成果および汎用的学習成果を獲得し、専攻の定める卒業の要件を満たした者に学位を授与する。

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

- ・ 音楽専攻は、幅広い教養と高度な専門性を兼ね備えた演奏家、指導者の育成と研究を目的とし、音楽芸術における演奏技術、表現の基本を体得することを目的としている。そのため、以下の三項目を軸として2年間の教育課程を組み、具体化していく。

- ・ 〈楽譜を読み取る力〉

音楽理論、ソルフェージュ、音楽史などの基本を習得し、楽譜に書かれていることを正確に読み取る力を養う。

- ・ 〈演奏表現〉

個人レッスンを中心に、基礎的な演奏技術、表現力を身に付けるための実践的な力を養う。

- ・ 〈アンサンブル〉

古典から近代までクラシックを中心とした楽曲を学び、基礎的なアンサンブル能力を獲得する。

③アドミッション・ポリシー「入学者受入れの方針」

- ・ 専門実技、音楽理論においての知識と基礎的な理解力を有する者。(知識・理解)
- ・ 楽典、ソルフェージュ、和声理論などを体系的に学習し、積極的に学ぶ意欲をもっている者。(思考・判断)
- ・ 音楽のみならず芸術一般に幅広い関心をもち、入学後の勉学について明確な志向と熱意を有する者。(関心・意欲)
- ・ 他者と集団での創造活動をするための協調性があり、専門実技、アンサンブルなどに積極的に参加できる者。(態度)
- ・ プロフェッショナルな音楽家を目指し、その技能習得に要する基礎的な演奏技術と表現能力がある者。(技能・表現)

(6) 桐朋学園芸術短期大学演劇専攻

①ディプロマ・ポリシー「卒業認定・学位授与の方針」

幅広い教養と高度な専門性を兼ね備えた専門俳優になるため、学科の教育課程（教養科目および専攻科目）の学修を通して専門的学習成果および汎用的学習成果を獲得し、専攻の定める卒業の要件を満たした者に学位を授与する。

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

演劇専攻は幅広い教養と高度な専門性を兼ね備えた専門俳優の育成と研究を目的とし、舞台芸術における表現の基本を体得することを目標としている。そのため、以下の三項目を軸として2年間の教育課程を組み、具体化していく。

- ・ 〈戯曲を読み解く力〉

戯曲の読解力を養い、言葉を演劇作品にしていくための想像力を培う。

- ・ 〈身体訓練〉

声を含めた身体訓練を通して、自分の想像した表現を実現する力を身につける。

- ・ 〈アンサンブル〉

アンサンブルに必要な優れたコミュニケーション能力と協働の精神を養う。

③アドミッション・ポリシー「入学者受入れの方針」

- ・ 専門俳優または表現者に必要な日本語の読解力がある者。(知識・理解)
- ・ 習得した知識・技能を活用し、課題に取り組むことができる者。(思考・判断)
- ・ 演劇のみならず芸術一般に幅広い関心をもち、入学後の勉学について明確な志向と熱意を有する者。(関心・意欲)
- ・ 基礎的なコミュニケーション能力と協調性があり、集団での創造活動に積極的に参加できる者。(態度)
- ・ 専門俳優または表現者（ミュージカル俳優、声優、ダンサー、パフォーマー等）を目指し、その技能習得に要する基礎的な身体能力と表現力を有する者。(技能・表現)

2 中期的な計画について

2020（令和2）年4月1日より施行された改正私立学校法により、文部科学大臣所轄法人では「中期的な計画」の策定が義務化されました。

これを受け、学校法人桐朋学園におきましては、2020年度を初年度とする5か年計画を策定いたしました。

桐朋学園は、男子部門、女子部門、音楽部門の3つの部門から構成される私学です。3つの部門はそれぞれの歴史と教育の特色を持ち、部門の教育と運営に主体性と責任を持っています。それが相互に良い影響を及ぼし合い、学園全体に大きな活力を生み出しています。

ただし、目指すべき教育と人間像は、三部門共通しております。すなわち、「人間性豊かで意欲的な、自主的・創造的な人間の育成」です。これを、中期計画の根幹に据え、学園全体の目標に掲げました。

次に、学園全体の目標を実現するための学園の基本方針として、以下の5項目を打ち出しました。

- I 必要な「学生生徒数」を確保し、安定した収入（「学生生徒等納付金」「補助金」「その他」）を得る。
- II 質の高い教育を実現させる為に必要な支出（「教育研究経費」など）を行うとともに、精力的に「支出削減」に取り組む。
- III 収支のバランスを図り、一定の基本金組入前当年度収支差額を確保する（各部門とも収支係数「5%」が指標。なお、音楽部門仙川キャンパスは「6.5%」を指標とする）。
- IV 永続的な学校運営のため、校舎建て替え等を含む中長期の財務計画を策定し、年度ごとに精緻なものにしていくとともに、着実に実行する。
- V 部門としてのガバナンス機能をさらに強化するとともに、法人として一定のマネジメント機能が発揮できるようにする。

以上の学園全体の目標並びに基本方針を踏まえ、各部門はその独自性を発揮し、部門としての目標のもと以下を主なテーマに掲げ、2020（令和2）年度、取り組んでまいりました。

○男子部門

学校名	項目	目標
桐朋中学校・高等学校	新教育課程策定・実施に向けた取組とICT化	本校が抱えている学習面を中心とした課題の克服 新学習指導要領下での、電子情報機器の活用
	学習の定着と志望の実現に向けた取組	中学生の学習の定着 高校生の志望実現に向けた、進路指導の見直し 生徒の主体的な行動における質的な向上
	安心・安全な学校生活の実現に向けた取組	災害時だけでなく、日常生活に対する点検・整備
	グローバル化	国際交流活動の拡大
	安定的な収入の確保	入学試験応募者の安定的確保
桐朋学園小学校	安全安心な学校管理	児童の登下校時の安全確保
	教育環境整備	教育補助員の充実 クラス定員減
	ICT化	タブレット端末を活用できる環境の整備
	グローバル化	外国語学習の拡充と国際理解教育
	安定的な収入の確保	入学試験応募者の安定的確保
事務部(管理運営)	人事	優秀な教職員の確保 教職員のスキルアップ
	施設	既存旧校舎の維持管理 校内LANシステムの適切な維持 省エネ
	財務	教育環境整備と教職員の働き方改革 学費改定による収入増

○女子部門

学校名	項目	目標
桐朋学園芸術短期大学	教育の改革と質保証	適切な学習成果の査定 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の活性化 他大学との連携強化 自己点検評価の充実 情報公開の推進
	学生募集	アドミッション・ポリシーに基づく学生募集 広報活動の強化
	将来構想	短期大学将来構想の策定

○女子部門

学校名	項目	目標
桐朋女子中学校・高等学校(普通科)	新教育課程の全面実施、探究型授業の整備・設置、こころの健康の充実	女子中高の特性を活かした新教育課程の編成し、実施する。 正課のプログラムのみならず、課外活動も通して、女子中高が50年間掲げているモットー「こころの健康 からだの健康」の更なる充実を図る。
	進学指導の充実	個々人の希望する進路を実現する。
	ICT機器の活用と危険性の認識	個々人に持たせるタブレット端末の活用を図る。 便利な面の裏面に潜む危険性についての認識を持たせる。
	海外研修プログラムの充実	世界に触れる経験を、一人でも多くの生徒に準備する。
	危機管理対応の充実	東日本大震災、新型コロナウイルス対応を経て得た経験・知見をまとめ、今後に生かす。
	安定的な収入の確保	入学試験応募者の安定的確保 寄付金サイトの活用
桐朋小学校	建学の精神、教育改革、教育環境整備(自治)	自分たちの学校(コミュニティ)を自分たちの意見と行動でつくっていく経験を通して、自治的な力と将来の平和な世界のつくり手として、一人ひとりが社会に参加していくための根っこを育む。
	建学の精神、教育改革(道徳)	子どもたちは、自分にかかわる事柄を自分の判断で決定する権利を、成長過程で獲得していく主体である。その年齢なりの知的判断力をはたかせて、道徳的な価値を選び、道徳的行為を選びとれるように育む。
	教育改革、グローバル化(地球市民の時間)	子どもたちがこれからの未来を地球市民として、世界の平和や持続可能な未来のために考え、行動できる人に育む。
	建学の精神、教育改革、定員確保、安定的な収入の確保	私立学校は、教育の目標を掲げてそれを実現していくことが、その使命であると考え。教育の理想を掲げ、手を携えて実現しようという保護者の方々との協働していき、私たちの教育と子どもの育ちを保護者に伝えていく。
桐朋幼稚園	教育改革、教育環境整備(建築)	桐朋幼稚園では、「指導」し、「教育」という「学校教育」的な発想からではなく、子どもの権利という側面から児童憲章や子どもの権利条約の精神を大切に実践と研究をすすめてきた。その精神を大切に建築、環境計画をすすめる。
	教育改革(3年保育)	一人ひとりが授かった命を大切に育み、自分らしく命を輝かせる、なかまや大人とかかわり、ちがいを認め合い、豊かな世界をつくり出していけるように育む。
	教育改革、教育環境整備(保育者増員)	2018年度より実施の3年保育実践を検証する。理想の保育を実現するために、定員を確保し、財務の見通しを持ち、2021年度に保育補助員1名を増員し、2023年度に専任保育者1名を増員する。
事務局(管理運営)	財務内容の改善	経費の削減と予算配分の重点化 自己収入の増加 資産運用状況の改善
	業務運営の改善及び効率化	人事の適正化 事務の効率化と合理化の推進
	施設設備の整備	施設設備の効率的な維持管理 中長期的な整備計画の策定 学内ネットワークシステムの適切な保守及び更新
	リスク管理ほか	災害等緊急時の対応整備 安全衛生管理上の環境整備 セキュリティ対策の充実 省エネルギー、省資源化への取り組み

○音楽部門

学校名	項目	目標
桐朋学園大学	カリキュラムの点検	建学の精神を踏まえ、それを実行できるカリキュラムの構築
	運営の効率化	教務システムの電算化促進
	学生の安定的な確保	学校の魅力発信の強化
	部門内の各学校間連携	富山キャンパスとの連携強化
	地域連携	調布市との連携強化
		海外の教育機関との連携強化

○音楽部門

学校名	項目	目標
桐朋学園大学大学院	カリキュラムの点検	建学の精神を踏まえ、それを実行できるカリキュラムの構築
	運営の効率化	教務システムの電算化促進
	部門内の各学校間連携	TAの高校の授業へ関わり
桐朋女子高等学校 (音楽科)	カリキュラムの点検	建学の精神を踏まえ、それを実行できるカリキュラムの構築
	運営の効率化	教務システムの電算化促進
	生徒の安定的な確保	学校の魅力発信の強化
子供のための音楽教室	カリキュラムの点検	設立の趣意を踏まえ、それを実行できるカリキュラムの構築
	運営の効率化	教室運営の点検・改善
	生徒の安定的な確保	生徒確保と収支の改善
桐朋学園大学院大学	カリキュラムの点検	建学の精神を踏まえ、それを実行できるカリキュラムの構築 教育環境の整備
	運営の効率化	教務システムの電算化の促進
	学生	建学の精神を踏まえ、それを実行できるカリキュラムの構築
桐朋オーケストラ ・アカデミー	カリキュラムの点検	建学の精神を踏まえ、それを実行できるカリキュラムの構築
	学生の安定的な確保	国内外における認知度の向上
	地域連携	地域との連携強化
事務局(管理運営)	人事	教職員の採用計画の策定 職員の資質・能力向上
	施設	教育研究環境の充実及び安全で快適な学習環境の実現 多様かつ効率的な事務システムの導入
	財務	収支バランスの適正化 効果的な広報活動の強化

○法人本部

	項目	目標
法人全体	ガバナンス体制の整備	事務局相互の有機的連携 各部門の人材育成
	安定した経営基盤の確保	必要な学生生徒数の確保 基本金組入前収支差額の確保
	三部門広報活動の支援	学園のブランド展開
	キャンパスの省エネ化促進	原単位5年度間平均1%以上低減維持
法人本部	ガバナンス体制の整備	理事会・評議員会の活性化 法人諸規程の改正・整備
	安定した経営基盤の確保	予算管理の徹底と経費の削減
	施設設備の整備・充実	ポロニア館及び附属設備の安全点検、省エネ化
	職務遂行能力の向上	SD研修会等への積極的な参加

3 事業総括、主な事業計画及び進捗状況

(1) 法人

①はじめに—— 桐朋学園の構成など

桐朋学園は、国立市にある男子部門、調布市仙川にある女子部門、同じく仙川を中心に調布市と富山市に展開する音楽部門の、三部門から成っています。男子部門には、桐朋学園小学校（共学）、桐朋中学校、桐朋高等学校があり、約2,191名の児童・生徒が学んでいます。女子部門には、桐朋幼稚園（共学）、桐朋小学校（共学）、桐朋女子中学校、桐朋女子高等学校（普通科）、桐朋学園芸術短期大学があり、約1,730名の園児・児童・生徒・学生が学んでいます。そして音楽部門は、桐朋女子高等学校（音楽科・共学）と桐朋学園大学音楽学部並びに大学院が仙川と調布に、桐朋学園大学院大学が富山市にあって、約969名の生徒・学生が学んでいます。別に附属教育機関として子供のための音楽教室（全国）と桐朋オーケストラ・アカデミー（富山）があり、一貫した音楽教育の体系を形成しています。以上のように三つの部門はそれぞれにいくつかの学校組織を持ち、独自の歴史と教育の特色を持っています。

桐朋学園は、内部的には部門制を採っており、各部門は自らの教育と運営等にかんがりの裁量権を有し、主体性と責任を持って部門運営に当たっています。部門間相互理解の上に、そのことが学園全体に連携と協力、そして大きな活力を生み出しています。部門ごとに教育に特色はありますが、共通するのは、一人ひとりの人間性を大切にし、こころ豊かで意欲ある、自主的・創造的な人間の育成を目指しているところです。学校法人桐朋学園の法人本部は仙川にあり、法人運営と学園事務に当たっています。

②外部状況の変化と本法人の課題と取り組み

新型コロナウイルス感染症の世界的拡大は、私どもが未だ嘗て経験したことのない脅威を齎し、ワクチン接種が始まった今も、事態収拾には未だ遠く、予断を許さぬ状況が続いています。国内でも2020年の1月中旬以降急速に感染が増え、全国の学校に対し、2月27日には突然一斉休校の要請が出されました。年度末の諸行事の差し迫っていた当法人のすべての学校も、休校の措置を執るとともに現場は大混乱に陥りました。その後全国に緊急事態宣言がだされ、休校は5月末まで続くこととなりました。

新学期に向けて学校はプリントや課題を郵送し、生徒・児童は自宅での学習を基本とし、並行してオンライン授業の準備が進められました。すべての園児・児童・生徒・学生に対し、各部門はそれぞれ総額1億円超の補助を行い、パソコン等通信環境の整備に当ててもらうなどし、まもなく当法人すべての学校でオンライン授業が本格化しました。しかしながら、質の高い同一空間での遣り取りこそが集団を成長させ個人を成長させるものです。自律的な個の育成を目指す当法人にとって、対面指導こそ指導の基本、との考えに今も揺らぐところはありません。

文部科学省は、知識偏重となっている大学入試を、受験生の思考力・判断力・表現力などを総合的に測れるようにと改革をすすめ、改革の目玉として、英語の民間試験活用や国語・数学に記述式の導入を決めていましたが、公平性が担保できないとの批判により、ギリギリで導入が見送られ、二転三転しつつ、受験生が翻弄された「大学入学共通テスト」の第一回試験が終わりました。「新学習指導要領」の導入が順次はじまり、2020年度の小学校を皮切りに21年度は中学全体、22年度は高校1年生が新たな学習指導要領で学び始めます。知識偏重型の学校教育を抜本的に見直し、自ら考え、対話しながら、多様な視点で学ぶ教育への転換を目指していますが、桐朋独自のよく練られた教育課程の編成が各部門で進められました。

また、私立学校法が改正され、中期的計画の策定が義務化されました。中長期的な視点にたった計画的な学校運営が求められる中、社会に信頼される学校であり続けるために、より一層の努力が求められています。部門と法人の緊密な連携のもと、桐朋学園全体が一致団結して教育の質の向上に努めて参らねばなりません。

こうした中であっても、「教育の質の向上」（魅力ある教育、優秀な教職員の確保育成、施設・設備の充実等への投資）と「健全な財務運営」（財務内容の改善、そのための人件費、経費等の削減）という、一面相反する難題への機動的な対応が私どもには常に求められています。

2020(令和2)年度の出発に先がけて理事長は、各部門に対し「令和2年度予算編成の基本方針」を示しました。内容は、「教育の質の向上」と「健全な財務運営」の両立を図るために、①必要な学生・生徒数を確保すること、②支出にメリハリをつけること、③一定の収支差額を確保すること、④教育・人事・施設・財務等が一体となった中期的計画を持つこと、などから成り、各部門はこの基本方針を踏まえて、事業計画の策定と当初予算の編成を行い、この一年着実に履行して参りました。

男子部門・女子部門・音楽部門が共通に抱える最大の課題は、入学志願者数及び必要な入学者数を確保することです。三部門どの学校も、教育内容の充実に努め、適切な広報活動を行い、各学校の教育内容のPRに努めました。コロナ禍により三密を避ける事を最優先し、人が集う機会、オープンキャンパス、相談会、説明会の類いはことごとくオンラインに頼らざるを得なくなりました。いつもと違う対応の影響は甚大で、例年との比較が叶わず、入学志願者数及び入学者数の予測が立たぬ中、各部門はできる限りの広報に努めました。大幅に定員を割り込むこととなった女子部門の芸術短期大学の結果分析においても例年との比較が叶わず、非常に困難な状況です。以下に2020年度における各部門の事業に言及しますが、詳細は各部門の報告を参照ください。

③男子部門の主な事業

これまで一貫して取り組んできた「学びの主体性を育てる教育」をより充実させるべく、新しい学習指導要領がスタートするのに合わせて進めてきた桐朋独自の教育課程の策定は、1年前の小学校に続き、2年半の歳月をかけて中学分が具現化しました。更なる自主・自律と、生徒が自らをコントロールする「自律的な学習者の育成」に向けて、「自ら考え、動く」ことができる生徒の育成へと、対話と創造を大切に、生徒の学びを支えます。

新しい教育課程の実施に向け、一年をかけて広報活動の検証と学校案内冊子の改定、HPの刷新に取り組みました。進路指導の見直しを図り、具体的な取り組みが充実した1年でした。加えて、日常的な指導の改善・充実にも取り組み、自律し、自己指導能力を有する学習者を育てる取り組みの具体化に取り組みました。

④女子部門の主な事業

短期大学が7年ぶりに文科相の認証を受けた評価機関による認証評価を受審しました。第3サイクルの受審年度であり、クリアすべき基準もレベルが高く、その準備には部門を挙げて万全を期して臨みました。「適格」の評価が得られましたが、前回評価内容と比較すると、教育の改革と質の保証が大幅に進捗したことが評価結果に顕れています。

部門として2019年に寄付金募集のサイトをHPに立ち上げ、以来そのPRにも努めてきましたが、寄付を「受ける」意識を「募る」へと変換し、積極的にアピールする年でした。特に初等部、中高部では目標額を上回る一定額の寄付金を戴くことができています。

⑤音楽部門の主な事業

仙川キャンパス第2期校舎建築計画が予定通り竣工し、これによりホールと高校生のホームルーム教室等が完成しました。仙川キャンパスにおいて高大全体教育を円滑に進めるための教育課程の検討も順調に進み、2021年度9月には調布キャンパスから大学生が戻り、後期からの実施を待つのみとなっています。

成熟した音楽家の育成を目的として2017年に開設した東京の大学院は、順調に成果を現していますが、ピアノ、弦楽器、声楽の各コース、研究領域に加え、新たに作曲、音楽学の2つのコース、研究領域を開設しました。これによって、学部から大学院への繋がりが魅力として加わるだけでなく、受験生の学校選びにおいても桐朋が新たな選択肢として視野に入ってくことに期待が広がります。

⑥法人全体として

安定した入学志願者と必要な入学者数の確保は、法人にとって三部門に共通する最大の課題であります。コロナ禍で説明会など開催できない中、各部門ともWeb等の活用を駆使し、今までにも増して力を注ぎ取り組みました。そのような中、期せずして桐朋学園小学校、桐朋小学校の両校が入試形態を2日から1日入試へ、2次制を1次制にそれぞれ変更しました。入試改革及び取り組んだ広報活動をどう評価すべきか、コロナ禍ゆえの難しさがあり、特別な一年のまま次年度の活動に突入しました。

私立学校法の改正は学校法人のガバナンス強化が目的の1つで、法人全体の中期計画にも盛り込まれています。私ども桐朋学園にとってガバナンスの強化とは、部門運営において「組織・経営の透明性を高めること」であり、引き続き浸透を図るべく、計画を推進して行きます。

(学校法人桐朋学園 理事長 河原 勇人)

(2) 男子部門

① 2020年度の事業の概要

2020年2月27日、当時の安倍首相は全国の小・中・高等学校に対して休校を要請、教育現場は、前代未聞の春を過ごすことになりました。小学校・中高ともに3月2日から臨時休校措置を取り、結果的に5月末までの3ヶ月にわたって学校に登校できない状態が続きました。小学校は、4月にリモート会議システムZoomを利用して各クラスミーティングや保護者会を開き、またGoogle classroomのシステムも活用して、オンライン授業の時間割を作成し、実施しました。また中高は、4月に、オンライン上で課題の提示・提出を行うロイロノートというシステムを活用しての授業が始まり、連休明けからはZoomを活用した朝のHRに続いて、各学年一日3時間程度の時間割を組んでオンライン授業を展開しました。

桐朋はこれまで、「対面かつ集団で空間を共有しつつ交わされる質の高いやりとりを授業の基本とする」「学年運営・委員会・クラブ等の活動を通して自主的精神の養成をはかる」ことこそ桐朋教育の本筋であると考えて、必要以上に前のめりなICT化には慎重な姿勢を保ってまいりました。現在、中高の新カリキュラムの検討が進められておりますが、その検討のなかでも、将来的なICT教育の可能性には触れつつも、今すぐにそれを教科指導に本格的に組み込むという発想には立っておりませんし、その導入のためにタブレットを全員に持たせるようなことをせずまいりました。しかし、最も多い時で世界190ヶ国、16億人近くの児童生徒が学校に通えない状態が続いたなか、法人本部からの資金支援をもとに、男子部門は5月13日の教職員会議において、「小学校・中学・高校のご家庭に、オンライン学習の環境整備のために、児童生徒一人につき一律5万円の支援金を届ける。」ことを決定しました。緊急事態であるからこそ、オンラインでの学習支援のために部門が一丸となって取り組むことができたと思っています。

昨年2月理事会でお示した2020年度～2024年度男子部門中期計画は、こうしたコロナの状況を予測できない時期に作成しましたため、その進捗状況についての報告書は、非常に厳しい自己評価が並んでいます。戻すのが精いっぱいという現実の下で、例えば「学習の定着と志望の実現に向けた取り組み」など、計画通りに進めることが出来ませんでした。中学生の学習の定着に向けたサポート・OBが勤めている大学の研究室に高校生を連れて行って知的な刺激を与える取り組み、あるいは学校行事を通じて生徒の主体性を育てる取り組み、クラブ活動、英語科のケンブリッジ語学研修なども次々と中止・縮小を余儀なくされるなかで、生徒たちが充実した学校生活を送っていたとは言い難いと思います。小学校についても同様で、日常の学びをどう保障するかということに教員のエネルギーを集中させざるを得ず、将来を見通したクラス定員減などの協議に時間を割くことも出来ませんでした。そんななかで、中高も小学校も、広報活動のほとんど全てをオンラインで実施する初めての試みに不安を感じながらも、結果的に小学校・中学校はほぼ前年並みの応募者を確保し、高校につきましてもしっかりと必要な数の新入生を確保できました。

3月末に集計された2020年度大学入試の結果、75期現役生の合格体験率は67%と、ここ10年では非常に高い結果となりましたが、現役進学率は49%と、前年から7ポイント上昇しています。東京大・京都大・国公立医学部の現役合格者は計15名、これに一橋大・東工大を加えた現役合格者数は合計25名となっています。国公立大学の現役合格者総数73名は、安全志向があったにせよ、現役生が底力を発揮した結果でしょう。大学入学共通テストをめぐる相次ぐ見直しや、コロナウイルスの休校などに翻弄された受験生活だったと思いますが、学年のスタッフを中心に現役生にしっかりと寄り添いながら最後までその力を伸ばす様々な取り組みを行って来ましたが、充分とは言えないまでも手応えが感じられる結果となりました。

◆基本方針

- ・ 桐朋がこれまで一貫して取り組んできた「学びの主体性を育てる教育」のさらなる充実をめざすとともに、新学習指導要領に対応しつつ、確かな学力に裏打ちされた豊かな人間性を育てることを目的とする、小・中・高の新教育課程の策定を進め、具体化を図りたい。
- ・ 中学の入試改革から5年が経過し、力のある受験生の確保という点では一定の成果が挙げられている。しかし一方で、広報活動は教員の負担も大きく、これ以上の展開は難しいという実情もある。教育内容の充実こそが広報上の最大の力点であり、そのための活力を削ぐことのないように、広報の体制を見直すなどして負担を軽減する工夫をしていきたい。
- ・ 新校舎の定期的な検査・補修など、維持管理体制を確立させると同時に、支出削減への取り組みを継続させる。また、築30年を経た中高体育館・小学校北館の計画的な改修を進め、今後も施設設備の機能向上を図りたい。
- ・ 学費改定と補助金、高校クラス定員減計画、校舎維持管理費、新たな人事計画など、諸条件を加えた第61次中期計画試算表を作成して収支分析および収支係数改善に努め、財務の安定を保ちたい。また、学校債廃止と寄付金について具体的な検討を進める。

② 2020年度の主な事業計画及びその進捗状況

○ 桐朋中学校・高等学校

事業名 新教育課程策定・実施

概要

2021年度に中学より始まる新教育課程に向けて、授業内容、授業時間、科目配置などについて議論し、本校の新しい教育課程を決定していく。
また、総合的な探求の時間の活用方法についての検討及びLHRの活用について再検討を行う。

進捗状況等

予定通りに中学の時間割構造図を決定した。同時に新学習指導要領実施時期が中学と高校の各学年が異なることから、その移行期における時間割編成についても検討を開始した。

事業名 ICT化

概要

新学習指導要領下でタブレットなどの情報機器をどのように使用していくのかの検討、ならびに他校で先行している活用事例の研究と情報機器使用環境の具体的な整備計画の策定を行う。

進捗状況等

特に高校の新学習指導要領下においてどのように情報機器を使用しなければならないかの情報が不足しているが、今年度の新型コロナウイルス感染症の影響により実施することになったオンライン授業の実施経験に基づき、タブレット等の利用方法が具体的に見えてきた面がある。他校事例の研究とともにこれらの経験を踏まえて、2021年度にはICT環境をどのように整備していくのかを具体的に検討していく。

事業名 学習の定着と生徒の主体的な行動における質的な向上

概要

中学生を中心とし、学習習慣をどのように定着させていくのか、また学習に不安を抱えた生徒へのサポート体制のあり方を検討していく。
また、学校行事を中心とし、その意義を教員間で再確認し、生徒の主体的な行動の質を向上させる。

進捗状況等

新型コロナウイルス感染症で休校となった時期が相当期間あったことから、学習習慣の定着あるいはサポート体制の充実に向けた検討を十分に進めることはできなかった。ただ、オンライン授業でロイロノートを利用する経験を通じ、新たな生徒とのつながり方を発見することができた。一方で、高校生においては、生徒自らの発案で桐朋祭の様子の一部をオンライン配信するなど、活動が限定された中でも生徒の意欲的な活動は目立ったものがある。

事業名 志望実現に向けた取組

概要

進路指導を中心としては、高1外部実力テストの業者変更を機に進路指導のあり方を再検討する。2年前から始めた実力テスト・模擬試験の成績推移表の活用を充実させる。
また、本校独自の「大学で研究してみませんか」という進路指導部企画で、卒業生が研究している大学や研究機関に生徒が訪れる機会をつくり、生徒の知的刺激を高め、高校での活動をより充実させる。

進捗状況等

新型コロナウイルス感染症による休校等の影響から、実力テストや模擬試験等を予定通りに実施することができなかった。
「大学で研究してみませんか」では、大学や研究施設を直接訪れる機会を持つことはできなかったのが非常に残念であるが、一部オンラインという形式で卒業生である研究者と生徒との交流が持てたのは貴重な経験となった。

事業名 安心・安全な学校生活の実現

概要

災害時だけでなく、日常生活における安心・安全な学校生活の実現を目指す。特に、熱中症等への対策や登下校を含めた学外での自律した行動がとれるように指導をしていく。

進捗状況等

やはりこれも新型コロナウイルス感染症の影響により、具体的な検討に至らなかった。その反面、校内でのコロナウイルス感染症の感染防止対策を充実することを目的とし、今まで踏み切れなかった入構制限なども行い、警備体制の充実をはかった。

事業名 グローバル化

概要

隔年で実施しているケンブリッジ語学研修実施の年が2020年度にあたる。この実施を踏まえ、今まで行ってきた海外語学研修や長期留学制度の検証を行う。また、日常の教育の中における外国人講師の充実を図る。

進捗状況等

新型コロナウイルス感染症の影響により、ケンブリッジ語学研修ならびにハロウスクールのサマーコースは共に中止となった。その代替研修として、ケンブリッジとオンラインで結ぶ形での語学研修プログラムを実施した。本校の中の国際交流委員会の活動も十分に実施することができなかった。卒業生を介してオランダのライデン大学の学生と本校生徒の交流会をオンラインで実施することができた。

JETプログラムで派遣されてくる予定であった海外の方の選定ならびに入国が遅れるなどにより、学校の中で外国人と接する機会が例年より少なくなってしまった。

事業名 入学試験応募者の安定的確保

概要

今までの本校における広報活動の検証を基に、本校にふさわしい広報体制の模索と重点を置くべき活動内容の精査を行っていく。これにともなって、広報にかかる費用の予算化を行う。2021年度は新学習指導要領実施ならびに校長交代の年にあたるので、ホームページや学校案内の大幅改訂を行う。

進捗状況等

広報にかかる予算化の第一段階は終了した。ホームページや学校案内の改訂作業も予定通り進んだ。ただし、生徒が作成する部分は改訂が進まなかったため、来年度に行う予定である。

○桐朋学園小学校

事業名 安全安心な学校管理

概要

2019年5月28日の登戸駅そばで起きた登校中の児童を狙った殺傷事件を受け、保護者から登下校時の安全について不安の声が寄せられている。最寄りの国立駅／谷保駅から学校までの児童の登下校を見守る体制をPTAとの協力体制を取りながら整えて行く。

進捗状況等

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、PTAとの協議を行うことができなかった。また10月末まで時差登校を実施した。今年度は自家用車等で保護者が送迎することを認めることにした。新型コロナウイルス感染症による登下校マナーや学校での新たな生活様式の徹底を行った。

事業名 教育環境整備

概要

2016年度から低学年児童が学習内容を獲得し定着する力をつけるために教育補助員の制度を始めたが、現在は教育補助の目的に留まらず児童の生活全般の補助の役割を担っている。確かな学力の育成を図るために中・高学年への教育補助員の拡充を検討するために、現行の教育補助員の職務の確認と見直しを行う。

また、本校の目指している「一人ひとりの子どもの心のすみずみにまで行きわたる教育」の一層の充実を図るため、1学級あたりの適正定員数について検討し、クラス定員減を目指す。

進捗状況等

新型コロナウイルス感染症の影響により、教育補助員についての検討ならびにクラス定員減についての検討は進んでいない。

一方で、単なるクラス定員減ではなく、その他の施策についての案も出されており、話題としては広がりを見せている。公立小学校のクラス定員を35名とすることや少子化が加速していることなどから、早急にクラス定員減計画を策定する必要があると考えている。

事業名 ICT化

概要

タブレット端末を用いて児童一人一人に応じた学習ができる環境を整備し、論理思考の育成を図ることを目的とし、今年度は本校の取組と他校の事例等について検証する。

進捗状況等

新型コロナウイルス感染症の影響により、学校が休校となり、ZoomやGoogle classroomを利用したオンライン授業が急遽展開されることになった。本来であればまずは、学内でのICT活用方法とそのための環境整備について議論されるべきであったが、その次の段階となる家庭学習の一助となるオンライン授業の実践となった。その後、新学習指導要領に伴い早急にICT活用を進めて行く必要があると考え、今年度は、LAN整備について検討をし、来年度には再来年度以降導入を目指した検討を行うこととした。

事業名 グローバル化

概要

高学年でのみ行ってきた英語学習を1年生から実施し、2020年度は3年目に入る。カリキュラムについての見直しをし、テキストも変更をした。低学年では、英語に慣れ親しむことを目標に、高学年では英語でコミュニケーションをとる体験を通して短いスピーチの練習や簡単なリーディングやライティングを行う。4年生以上で行っている国際理解教育についても継続していく。

進捗状況等

計画通り、1～4年生でテキスト「Smile」の使用を開始した。一方で低学年に英語を母国語としている外国人と専任教諭とのチームティーチングの機会をもつ予定であったが、JETプログラムによる外国人の派遣が、新型コロナウイルス感染症の影響により滞っている。その中であって、今年度も例年通り国際理解教室を開催した。ただし、密を避けるために、児童全員が一堂に会することはできなかったため、一部児童に対しては放送による実施となった。

事業名 入学試験応募者の安定的確保

概要

学校体験日の実施などの広報活動により、ここ数年応募者数を増加させてきた。今後も応募者を安定的に確保するため、近隣地区私学の入試動向の分析、今まで学内・学外で行ってきた広報活動の総括をし、今後の活動のあり方を見極める。

進捗状況等

新型コロナウイルス感染症の影響により、今まで実施していたような来校していただいていた学校説明会等が実現できず、その代替としてZoomを用いたオンラインでの学校紹介等を実施した。今回のこのような学校紹介が入学希望者数に与える影響を分析し、今後の広報活動のあり方を検討していく。入試実施形態の変更もあり、昨年とほぼ同数の志願者数を確保することができた。

○事務部（管理運営）

事業名 優秀な教職員の確保と人員配置

概要

教職員の採用を含めた人事のあり方の再検討

進捗状況等

今まで想定していた採用時の年齢を実際の採用時年齢に引き上げることで財務計画の修正を行った。特に、特定教科・科目の教員の確保が難しくなっていることなどへの対応策の検討も開始した。

事業名 教職員のスキルアップ

概要

現行の研修制度の見直し。今以上に、自らの能力を高めることができる魅力的な環境作り。

進捗状況等

今年度十分に検討することができなかった。現在の研修制度が教員を中心とした研修制度であることから、事務職員にとっても利用しやすい研修制度の検討を開始した。

事業名 旧既存校舎の維持管理

概要

既存の旧校舎を現段階では今後15年近く使用する予定であるが、そのための維持管理計画ならびに費用の試算、建替計画の策定を行うために、まずは現況分析を行う。

進捗状況等

既存校舎の現況確認を来年度にかけて行っている最中である。

事業名 校内LANシステムの適切な維持

概要

新校舎建築に伴い構築した校内LANシステムの維持管理ならびに更新に相当な費用がかかる。これらの計画の見直し（VE）を行う。

進捗状況等

ICT機器導入に向けての検討が加速している。来年度以降、学内でのICT機器活用についての合意形成が急がれる。これに伴って、現行システムの更新計画の変更を検討している。

事業名 省エネ

概要

新校舎建築により多くの部分で省エネ機器の導入がなされたが、費用面で導入が見送られたものなどの再検討、ならびに省エネ診断によって指摘された事項への対応策を検討する。また、教職員ならびに児童・生徒へのさらなる省エネに対する意識付けを行う。

進捗状況等

今年度に関しては、省エネ診断により指摘された中高体育館照明機器を更新した。

事業名 教育環境整備と教職員の働き方改革

概要

男子部門各学校のクラス定員減、教職員・教育補助員の適正配置、65歳以降の働く環境作りなど、いずれも財務に大きな影響を与える問題となる。まずはこれらに関する課題の洗い出しとそれぞれの重要度を検討、さらに財務面からそれらの可能性を模索する。

進捗状況等

新学習指導要領に伴う中高教員配置の検討を行った。また65歳以降の働く環境作りについて、いくつかの案を作成し検討した。

事業名 学費改定による収入増検討

概要

教育環境改善を目的とし、東京都の他私学の学費改定の動向を分析し、経常費補助金との適切なバランスを考えた学費改定案を模索する。

進捗状況等

学費改定案を今後の学校運営に合わせて数パターン作成した。今後は、新教育課程の作成と並行して、これらの分析を随時更新し、この財務分析を基に、現実的な学校運営方針を模索していく。

(3) 女子部門

① 2020年度の事業の概要

2020年度は、コロナの影響を除外して報告することはできません。当初予定になかった「コロナ対応」という事業を新たに一本用意し、進めてきた印象さえ持ちます。女子部門の5つの学校と部署、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、短期大学そして事務局のいずれにおいても、オンラインで授業や業務を進めた経験はほとんどない状態で、2020年3月の休校を迎えました。休校が長期化することがはっきりした時点でオンラインの準備を進め、幼稚園から短大までの全在校生に、一人ひとり56,000円を給付し、各家庭でオンラインの設備を整える一助としてもらいました。オンラインによる活動の内容や期間は、学齢によって大きく異なります。幼稚園児にオンラインでできることは多くはありません。保護者との面談に活用し入園の日に備えました。一方、短大では座学を中心に学修のほとんどをオンラインで行った講義もあります。実技系はオンラインでできることは限定されるので、各講義の人数を半数にして対面で行うなど、工夫をしました。実技系の講義を夏休みに集中して実施したため、2020年度は短期大学には夏休みはありませんでした。その他、食堂にパーティションを準備したり、放課後の消毒作業の一部を教職員から切り離して外注するなど、様々対応しました。

学生募集にも、コロナは大きく影響しました。短期大学の演劇専攻は、対面で行ってきたセミナーやオープンキャンパスの実施回数を大幅に減少せざるを得なかったことが大きく影響したのか、入学者数は目標の80名を下回る66名に留まりました。この減少を一過性のものにするべく、2021年度は早々に動き出しています。短大の将来構想も視野にいれながら、音楽専攻と共に短大としてできることをやるしかありません。中学は、目標の160名を超えることができました。出願者数は例年に比べ多くはなかったものの、入試当日の欠席者が少なく、加えて合格者の歩留まり率も高く、このような結果になった次第です。説明会参加者は、コロナの影響も受けたのか、例年と比べて決して多くはなかったものの、広報担当者は「こころに刺さるような案内をした」と言っています。その姿勢も伝わったことと思います。学校説明会をオンラインで実施するのも初めてでしたが、様々工夫しながら進めてきたことがこのような結果につながりました。

2020年度以降、小学校から高等学校まで、学習指導要領の改訂期に入りました。2020年度は小学校の改訂が行われました。英語の教科化など、大きな変化を伴う改訂でしたが、当初の予定通り英語だけでなく多文化共生なども交えた「地球市民の時間」を新たに設置し、始動しました。中学は2021年度から始動する新しい教育課程を決定しました。言語技術教育にかわる国語の新しいプログラムは一足早く2020年度から始動しています。

② 2020年度の主な事業計画及びその進捗状況

○ 桐朋学園芸術短期大学

事業名 教育の改革と質保証—認証評価への対応

概要

学校教育法に基づいて、全ての高等教育機関は、7年以内に1回、文部科学大臣の認証を受けた評価機関による認証評価を受けることが義務づけられている。
2020年度における短大部は、2013年度に続いて、認証評価第3サイクルの実施調査年度であり、その認証評価を得るための必要な準備に万全を期さねばならない年度であった。

進捗状況等

2020年度の認証評価は、新型コロナウイルス感染拡大のため、調査は10月15日にオンライン会議により行われた。当日までの約2ヶ月間に渡って、評価員3名の方々への必要書類の提出、質問事項への回答等々、数回のやり取りを経ての会議であった。準備の甲斐あって、大きな指摘事項もなく「適格」の評価を得ることができた。
短大部では今後とも、今回の認証評価の経験を活かし、自己点検・評価活動のさらなる充実を図り、改革・改善を計画的に促進していかなければならない、と認識している。

事業名 学生募集—入試志願者の安定的確保

概要

2021年度大学新入試制度へむけて、入試方法、入試日程を検討するとともに、劇上演実習、演奏会、オープンキャンパス等の内容をより充実させて、安定的な学生確保へむけての努力を続ける。特に音楽専攻においては、確実な定員確保に繋がる取り組みの強化・改善を図る。

進捗状況等

2020年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延に翻弄された1年であった。特に2021年度入試へむけての重要な情報宣伝活動である劇上演実習、演奏会、オープンキャンパス等々が無観客またはオンラインでの配信という方法で実施せざるを得なかった。

特に本学における学生募集の核と位置づける、オープンキャンパスの中止または縮小の影響は、小規模校である本学の少数教育の魅力とその成果を、充分に受験生に周知徹底する機会を逸することになった。

結果、2021年度入試は、演劇専攻が66名（学則定員70名）、音楽専攻が37名（学則定員50名）という誠に厳しい結果となった。特に演劇専攻の定員割れは、同専攻有史以来のことであり、短大部としては深刻に受け止めている。2022年度入試へむけてあらゆる方策を講じる決意である。なお、専攻科の入学者は演劇専攻が22名、音楽専攻が14名と例年並みの結果であった。

事業名 教育活動—演劇・音楽両専攻における学外活動について

概要

演劇専攻による東京演劇大学連盟主催による合同公演及びA T E C（アジア演劇研究センター）主催によるアジア学生演劇祭への参加、また、音楽専攻による各種アウトリーチ活動の実施。

進捗状況等

2019年度の演劇専攻においては、引き続き東京演劇大学連盟の一員として、文化庁委託事業の「次代を創造する新進芸術家育成事業」への参加、そして2020年5月に中国・北京の中央戯劇学院で開催されるA T E C（アジア演劇研究センター）主催によるアジア学生演劇祭に参加する予定であったが、両事業ともが、新型コロナウイルス感染症の拡大のために、2021年度へ延期されることとなった。

音楽専攻においても、2019年度に引き続き、地元の調布市は勿論のこと、福島県南会津町でのアウトリーチ活動、兵庫県加東市との連携事業である「音楽の日・コンサート」の開催等々の連携事業が予定されていたが、これも新型コロナウイルス感染症の影響により中止された。

事業名 教育活動—学位取得を目指す学生への支援

概要

2018年度から出発した学位授与機構における認定専攻科での、「学士」の学位取得を目指す学生の「学位審査申請」を全力で指導及びサポートする。特に前回の申請においては、学位授与機構と本学との「教養科目」修得の取り扱いについて齟齬が生じていたので、2020年度はより慎重に指導及びサポートを行う。

進捗状況等

前年度（2019年）の申請においては、学位授与機構と本学との「教養科目」修得の取り扱いについて齟齬が生じていたので、2020年度はより慎重に学生への指導を行った。特に本年は新型コロナウイルス感染症の影響により、実技における学修成果の作成に苦慮したが、コロナウイルス感染対策に万全を期すことにより、無事に成果物を提出し面接試験に臨むことができた。結果、音楽・演劇の両専攻の合わせて28名のうち26名が「学士」の学位を取得し卒業することができた。

○桐朋女子中学校・桐朋女子高等学校普通科

事業名 新教育課程の全面实施、探究型授業の整備・設置

概要

教科横断型の学習、探究学習として新たな講座（仮称：ダヴィンチ講座）をBブロック（中3・高1）に設置し、その成果を文化祭で一人ひとり発表する。

書く力や発表力の育成、授業中の学び合いなど、主体的・協働的な学習のより一層の充実を目指す。

進捗状況等

中学の新しい教育課程は、2021年度より3学年同時にスタートする。2020年度中に準備をほぼ終えたところだが、探究学習の新しい講座は高校1年生単独でまずスタートし、中学3年を含めてスタートするのは数年後とした。準備に時間をかけたいという主旨である。高校の新しい教育課程は、2022年度、高1より学年進んで実施する。その教育課程表を完成させた。それをもとに、自由選択制を活かした時間割を作成する作業が残っている。探究学習の成果発表に関しては、2020年度、高1と高2が文化祭時にポスター発表を行い、更に高1は各クラスから選抜されたメンバーが大教室で聴衆を前に発表も行った。コロナの影響でお客様を誰も呼ぶことができない文化祭であったが、多くの方に見ていただきたと感じる発表だった。

事業名 進路指導の充実

概要

学校行事などで積んだ多くの経験を文章化してポートフォリオに蓄積する。
学習時間をしっかり確保するために、学校内での学習場所を用意する。
進路アドバイザーを常時確保し、AO入試、推薦入試の準備にあたる。
学習支援のシステムを整備する。

進捗状況等

ポートフォリオ化は、導入する大学が極めて少なく、取り下げとなった。学習支援、学習場所の確保は、コロナの影響でラッシュを避けて下校させることが至上命題となったため、全く実現できなかった。2019年度は短大の図書館を遅くまで開館していただき、そこを利用させていただいたが、2020年度はそれでもできず、残念である。進路アドバイザーは、学校推薦型選抜（旧推薦入試）や総合型選抜（旧AO入試）において有効に機能し、多くの生徒の後ろ盾となった。

事業名 ICT機器の活用と危険性の認識

概要

高校1年生からタブレット端末を持たせ、授業にとどまらずあらゆる面で活用する。
リテラシーを学び、感情に流されずに使用できるタフさを身につける。
スマホ・携帯電話の学校内での活用の可能性を探る。

進捗状況等

2019年来、高1入学時に導入しているタブレット端末だが、2年目の今年は初期トラブルも少なく、スムーズに導入できた。休校になった影響で中学生の希望者にもタブレット端末を紹介し、一足早く購入する家庭が少なくなかった。一方、SNSトラブルは散見された。今まで行ってきた、学年全体を集めてのマナー講習会が実施できず、その必要性を痛感した次第である。個人所有の端末の使用までは議論を進められなかった。

事業名 海外研修プログラムの充実

概要

米国夏季研修を、参加人数に制限のない豪州・シンガポール研修に切り替える。
2019年度より参加している中国への研修でよい経験を積む。

進捗状況等

米国夏季研修、中国での研修、いずれもコロナ禍のため、実施できなかった。

事業名 こころの健康の充実

概要

本校オリジナルの副教材を活用した中学道徳の実施。
発表学習を通して、聞く力、聞く姿勢、意見を尊重する姿勢を育てる。
生徒の主体性・協働性を育てるために、活発な学校行事、部活動を維持、推進する。

進捗状況等

道徳の副教材は予定通り改訂し、中学全学年で活用している。道徳の時間の延長として、感謝の気持ちを表すことを具現化した学年もあり、目に見える形で成果が現れたことは生徒の心に残ったであろう。学校行事は例年と同じようにはとてもできなかったが、形を変えて実現できたものもある。今の状況で何ができるかを考え、実行するよい機会となった。

事業名 安定的な収入の確保

概要

広報の3ツール（説明会、パンフレット、ホームページ）の検証、改善
入学試験の検証、改善
「寄付を受ける」から「寄付を募る」への変換を図り、積極的にアピールする。

進捗状況等

コロナ禍の中、対面での説明会がなかなかできず、オンラインに頼らざるを得なかった。初めてのことであり、手ごたえが実感しにくい。校内案内の際は、教員1名と受験希望者1組という割合で対応し、先方の希望に沿った対応を心掛けた。その成果もあってか、合格者の歩留まりが大変高く、目標を超える入学者数を確保することができた。2019年度にホームページに寄付金サイトを立ち上げて以来、入学準備のための説明会や保護者会で積極的にアピールした結果、一定額の寄付金を集めることができた。

○桐朋小学校・桐朋幼稚園

事業名 教育改革—幼稚園3年保育

概要

幼稚園では、2018年度より開始した3年、3歳児保育について、2018年度入園の3歳児が2020年度に卒園するまで継続して実践研究をすすめる課題と位置づけて取り組んでいる。月に1度、共同研究者（大学教員）といっしょに、エリクソンの理論を中心として実践と結びつけて学習し、桐朋幼稚園の特色ある保育をつくり出している。その成果は、初等部の夏季研究会、幼稚園と低学年ブロック合同研究会で学び合い、小学校の入試改革に結びつける。

進捗状況等

2020年度に計画をした幼稚園の3年、3歳児保育（2018より実施）の検証については、コロナ対応に迫られたため、2021年度も継続して行うことにした。また、3年保育で育った子どもたちが小学校に入学し、どのように成長していくのか見ていく。2016年度より幼稚園では共同研究者（大学教員）を講師として招き、エリクソンの理論を中心として実践と結びつけて学習し、桐朋幼稚園の特色ある保育を創造してきた。2020年度もオンラインで行った。2021年度にまとめを行う。

事業名 教育改革—グローバル化（地球市民の時間）

概要

小学校では2020年度より、「地球市民の時間」として、外国語、国際理解教育、多文化共生教育を行う。子どもたちがこれからの未来を地球市民として、世界の平和や持続可能な未来のために考え、行動できる人に育む。3年生～6年生では、授業時間数を増加させる。

進捗状況等

小学校では、「地球市民の時間」を開設した。子どもたちがこれからの未来を地球市民として、世界の平和や持続可能な未来のために考え、行動できる人に育つ、その土台となる学びの時間である。外国語（高学年は教科化、中学年は活動）、国際理解教育、多文化共生教育を3つの柱としている。

コロナ感染のため、対面での学習は制限があったが、オンラインで現地の方と繋がる機会を増やすなど、いろいろと工夫して学んだ。ルワンダで義足をつくり続ける人とオンラインで繋がり、学ぶ機会を得た。SDGsの学習、フリーザチルドレンの講師、エネルギーと環境問題では「エネこや」の方を招くなど、たくさんの講師や通訳の方より学ぶことができた。たとえば、ICU（国際基督教大学）の大勢の留学生、通訳の学生とZoomで授業「いろいろな国に遠足に行こう！」（子どもたちから留学生にビデオレター、留学生からお返事ビデオ、Zoomで話し合う。）では、子どもたちは、違う国の人と結びつくことを通して、言葉が違っても気持ちが通じ合う経験や国が違っても言葉が違っても同じ人間という意識などを深めていくことができた。

事業名 定員確保

概要

活動や授業、環境を充実させ、魅力的な園、学校を創り出し、志願者の増加に繋げていく。幼稚園では、募集後すぐに満席となる保育見学会を充実させ、園説明会も募集人数を増加するなど、志願者増加を目指して取り組む。小学校では、学校体験会の募集人数を大幅に増やす。

進捗状況等

コロナ下で制限があったが、活動、授業を充実させ、魅力的な園、学校を創造する努力を続けた。その取り組みの様子を、保育見学会や説明会で伝える機会を持つことができなかった。そのため、ホームページで様子をていねいに伝える機会を持ち、オンライン説明会も複数回開催した。それでも、受験を考えている方たちに直接伝える機会を持ちたいと考え、小学校では、感染者が少ない時期に、感染対策を徹底して少人数説明会を行った。幼稚園は志願者、合格者を確保したものの、女兒の辞退が多く、次年度の重点課題となった。3月には初めてのオンライン個別相談会を実施した。今後、少人数で見学場所を制限した形での見学会や説明会などを行う予定である。小学校は、これまで実施してきた2次制考查を1次制考查とした。男女とも志願者が増加した。

事業名 安定的な収入の確保

概要

2019年4月入園の保護者より、任意で教育環境整備寄付金をいただいている。定員26名なので7割である18世帯以上350万円を目標にし、その額を大幅に超えた。小学校では1,000万円を目標（7～8割の保護者よりいただくこと）にして取り組み、毎年目標額を超え、保育、教育への期待の大きさを感じている。2020年度も目標額を超えるように努力する。

進捗状況等

例年、保護者の方には、入園、入学した子どもたちの姿を参観していただいた際に、寄付金の呼びかけを行ってきた。しかし、コロナ下でその取り組みができなかった。それでも、幼稚園、小学校ともに、目標に近い寄付金をいただいた。

〇事務局（管理運営）

事業名 財務内容の改善

概要

物品購入の一元化や外部委託の導入、ICTの活用等で事務業務の効率化に取り組むとともに、LEDなど環境負荷低減と節減効果が見込める機器の導入で管理経費の一層の削減を図る。

入学定員の獲得で学生納付金の安定的な確保に努めるとともに、短期大学は国・政府系機関の競争的資金(補助金)の獲得、高校以下は東京都等の各種助成の活用、部門全体では寄付金の募集拡大など積極的な外部資金の獲得を図る。また、安全かつ効果的な資産運用についても研究を進めていく。

進捗状況等

予算に携わる事務職員・部署の多くが、コスト管理を意識しており、取引業者や契約内容の見直しが進んでいる。しかし、2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策に係る経費がかさむ一方で、教育活動に伴う経費は縮小するなど、経費支出の動きが例年と異なっており、成果が実感できる状況にない。また、教育現場も含めた部門全体での検討には至っておらず、今後の課題である。

2020年4月にスタートした高等教育の修学支援新制度に、新型コロナウイルス感染症対策としての「学生支援緊急給付金」の制度が急遽加わった。都や調布市でも感染症対策事業への補助金が新設され、担当部署はその対応に追われた。資産運用については、銀行・信託銀行・証券会社から基本的な情報の収集を行っている段階である。

事業名 業務運営の改善及び効率化

概要

事務局の効率的な業務運営を前提とした専任職員、嘱託職員及び定時職員、派遣職員の配置を行い、各学校の目的達成のための人員体制を整備する。

事務処理の簡素化、外部委託の活用、情報化の推進等により効率化・合理化を図るとともに、業務内容の変化に柔軟に対応できるよう、事務組織の定期的な見直しを行う。

職員に必要な教育研究活動支援等の知識及び技能習得や、職員の能力及び資質を向上させるためのSD (Staff Development)活動などの研修を実施する。

進捗状況等

2021年4月1日付で2名の事務職員の採用が決定した。職員全体の年齢構成のバランスも改善し、今後の事務局のあり方を考えていく上で重要な人事となった。

効率化や合理化に関して、個々の職員のレベルで様々な取り組みが見られるものの、組織的な対応はこれからといった状況である。

SD活動については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、低調な一年となった。

事業名 施設設備の整備・拡充

概要

良好な教育環境が保持されるよう既存施設の適切な維持・管理を行う。また、施設設備の整備・更新にあたっては、学科の改編や入学定員や教職員数の見直しなどを考慮した中長期的な整備計画を策定する。

学内ネットワークシステムや事務局管理の各種システムについては、セキュリティ上の観点から適切に保守および更新を行う。

進捗状況等

女子部門全体の今後の校舎建築について、基本構想の検討が徐々に進められてきたが、方向性の確認には、まだ少し時間が必要な状態である。

施設・設備の整備・更新では、長年の懸案であった井戸ポンプの交換工事、2項道路のセッバック工事に着手、無事終了した。

システムの更新は課題の共有が進み、個々の職員・現場レベルで研究が進められているが、組織としての本格的な検討には至っていない。

事業名 リスク管理ほか

概要

災害等緊急時の対応については、常に最新の知見を獲得、防災訓練時にその実証を行い、そこで得た評価を次の訓練時に活かす流れを確立する。

定期健康診断やストレスチェックの結果が教職員の健康管理に適切に活用されるよう衛生委員会、産業医、カウンセラー、保健室等が協力して対処する体制を整える。また、各種ハラスメントの防止や労働環境改善のための研修等も積極的に実施する。

セキュリティ対策を重視し、個人情報の適正な管理と、Webサイト等の安全性確保を徹底する。

省エネルギー、省資源化への取り組みとして、LEDなどの環境負荷低減と節減効果が見込める機器の導入のほか、節電節水を奨励し、光熱水費等の節減を図る。

進捗状況等

新型コロナウイルス感染症対策の影響で防災訓練の中止や規模の縮小が相次いだが、感染リスク下での防災のあり方を検討する機会となり、今後に活かされるものと考えている。

労働実態の客観的な把握の第一歩となる勤怠管理システムの導入が進み、試用段階に達した。また、産業医の位置付け等についても検討が進んだ。

セキュリティに関しては、脆弱性が指摘されていた女子部門Webサイトの常時SSL化を行った。新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、在宅勤務の実施に向けて必要なセキュリティ対策の検討も始めた。

省エネ・省資源化に向け、LED化などが進んだが、新型コロナウイルス感染症対策の影響で学校の動きが通常と異なったこともあり、成果については実感が得にくい年となった。

(4) 音楽部門

① 2020年度の事業の概要

2020年度に音楽部門の掲げた主な事業計画の項目は以下の通りでした。

- ・第2期工事プロジェクト
- ・高大一体教育の強化
- ・学部から大学院への繋がり
- ・キャリア支援の充実
- ・音楽教室の運営状況把握と経営安定化
- ・東京の大学院の充実
- ・富山キャンパスと仙川キャンパスの情報共有の強化
- ・教務の電算化推進
- ・教職員のスキルアップ

これらの中で、新型コロナウイルス感染症のために多くの教職員がオンラインによる授業運営などに忙殺され全く手が付かなかったものも多い中、最も重要な事業であった仙川校舎の第2期工事プロジェクトは関係各位の精励により予定通りに進み、無事に竣工しました。

また、授業やレッスンの遠隔実施に伴い、学生生徒に対しては、校納金を一律10万円減免することを他の学校法人に比べていち早く実施したこと、さらには、教職員に対しては「音楽部門70周年記念助成」として個人による意義ある音楽活動に対して、また、経営上、学園に大きな利益をもたらす技術、システムに関する策に対し、上限100万円の助成を行ったことは、コロナ禍という国難とも言うべき状況のなかで、学ぶ者、教える者双方にとって少しでも助けや励みになればという思いによるものでした。

コロナ禍のなかで心配された高校や大学の入試ですが、万が一のことを想定してオンラインによる受験も認めることとしました。その準備と実施については多くの教職員の労を要することになってしまいましたが、幸いなことに、受験生の大幅な減少は回避でき、厳しめの収入を見込みながらも、次年度の当初予算をほぼ例年通りに組むことができました。

省みれば、2020年度は従前の予定とは大いに異なる年度にはなりましたが、それでも、何とか乗り切れたという思いがしております。授業や受験、学内の会議など、好むと好まざるとにかかわらず取り組んだ、取り組まざるを得なかったリモートによる対応でしたが、その中から学習したことも少なからずあったと考えます。この先、ウィズ・コロナ、ポスト・コロナの時代に入った後にも、それらオンラインの活用によって部門が学習したスキルは有効な要素も多く、それを今後活かして行きたいと考えております。

② 2020年度主な事業計画及びその進捗状況

○仙川校舎建築

事業名 第2期工事プロジェクト

概要

前年度3月に起工したこの工事は、2020年度内に竣工予定であり、実施設計から施工へと進む第2期工事を計画通りに進める。

進捗状況等

新型コロナウイルス感染症が収まらないなかであって、無事、工期内にこのプロジェクトを終えた。若干の是正工事が残ってはいるが、3月22日に竣工式、ホールのお披露目を開催し、新年度からの校舎運用開始に間に合わせる事ができた。

○桐朋学園大学と桐朋女子高等学校音楽科

事業名 高大一体教育強化

概要

新校舎運用開始を見越した時間割の策定を始める。音楽部門の特徴である、高大一体教育の強化のため、高校から学部への繋がりをより意識したカリキュラムを検討し、実施することによって、高校と大学がともに魅力あるものとする。

進捗状況等

新校舎（H館）において、まずは高校の授業から始め、半期遅れて、大学の授業を行うこととした。新学期の混乱を避け、また各授業が密な状態にならないように、無理のないH館の運用開始を決めた。

○桐朋学園大学

事業名 キャリア支援の充実

概要

大学卒業後の進路が、高校を選ぶ際にも重要な要素になっており、キャリア支援の強化は、その意味でも重要である。留学や就職に役立つ情報の発信、講座の実施など、キャリアサポートを強化する。

進捗状況等

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、キャリア支援の講座や説明会などが中止せざるを得ない状況であった。そのような中であって、年度末の3月に海外の講師による講座をオンラインでできた意義は大きかった。今後、講師の実際の来校がなくともキャリア支援の講座が行えることを学習した。

○桐朋学園大学音楽学部附属子供のための音楽教室

事業名 音楽教室の運営状況把握と経営安定化

概要

- ・ 音楽教室で学ぶ生徒が、高校へ、あるいは大学へと進む流れをよく認識し、より多くの生徒が音楽部門の学校に進むよう、必要なことを把握する。
- ・ 収支を安定させるため、必要なことを見出し、収支改善につとめる。

進捗状況等

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で、休室者や退室者が出てしまい、収支が大きく悪化した。しかしながら、各教室では、オンラインによるレッスンや授業に取り組むなど、できる限りのことを行い、高校や大学への音楽教室生の占める割合については、2020年度内に行われた2021年度入試において、高校新入生49名中、音楽教室出身者は30名（約61%に相当）、大学新入生160名中、内部進学者を除く116名中の19名が音楽教室出身（外部からの新入生のうち16%に相当）など、一定数を確保した。ちなみに、2020年度入試においては、高校新入生64名中、音楽教室出身者46名（約72%に相当）、大学新入生167名中、内部進学者を除く121名中の17名が音楽教室出身（外部からの新入生のうち約14%に相当）である。
- ・ 各教室の在籍者の状況把握などもある程度進んだ。

○桐朋学園大学大学院

事業名 学部から大学院への繋がり

概要

専攻によっては学部から大学院への繋がりが重要であるが、作曲コース、音楽学コースの新設によってより安定した経営を図る。

進捗状況等

東京の大学院は安定した志願者を得ており、順調に運営されている。

○桐朋学園大学院大学、オーケストラ・アカデミー

事業名 富山キャンパスと仙川キャンパスの情報の共有化

概要

これら富山キャンパスの各学校が、音楽部門の中の大切な教育機関であるという意識が希薄になることのないよう、教職員、学生生徒の交流や、仙川との有機的な繋がりが強化できるように検討する。

進捗状況等

新型コロナウイルス感染症のため、人の行き来が制限され人的な交流が難しい状況であった。会議はほぼすべてZOOMによる遠隔会議で行われた。情報の共有強化については富山と仙川両キャンパス会議において、それぞれの運営報告を従来通り行うに留まった。

オーケストラ・アカデミーからもたらされるオーケストラ入団情報に関しても、入団オーディション自体が例年よりも減ったためか、やや少な目だったが、それでも、数件伝えられた情報は、仙川キャンパス会議においても情報共有した。

○教務のシステム

事業名 教務の電算化検討

概要

現在、教員からの成績報告、学生・生徒からの履修登録など、多くの作業が紙ベースで手作業で行われている。そのため膨大な労力を費やしている業務を合理化するため、システムの導入を検討するチームを立ち上げ、この検討を加速させる。

進捗状況等

コロナ禍のために、紙ベースで行われている多くのことが困難であることを実感し、デジタル化の必要性が痛感された。しかし、教員も職員も、遠隔授業などへの対応に忙殺されて、このプロジェクトはほとんど手つかずの状態となってしまった。ただし、遠隔で授業や会議を実施することで学習し身につけたスキルもあり、何ができ、何ができないか、このプロジェクトを始める前の状況とはニーズが異なっていることを認識した。そのような中であって、業者に対して、どういうことをしたいと考えているのかを伝えることは行えた。

○教職員のインセンティブ

事業名 教職員のスキルアップ

概要

研修制度など、教職員のスキルアップの制度は、規程に定められている。今年度、それらを検証して、若い教職員が自分のスキルを向上させ、それが学校の教育力の向上、学校の魅力に繋がるように整える。

進捗状況等

業務指示ではないが職務に関連した技能のスキルアップに対しても一定（上限5万円で費用の半額）の補助をすることとした。また、「桐朋学園音楽部門70周年記念助成」として、意義のある音楽活動や経営上学園にとって利益をもたらす技術やシステムに関する策に対して、一件につき100万円を上限とする助成を行うこととし、10の案件を採択した。

(5) 法人本部

① 2020年度の事業の概要

2020年度法人本部では在宅勤務と時差出勤を導入しました。新型コロナウイルス感染拡大により職員の安全に配慮するためです。導入時は前年度決算とりまとめの時期と重なり、業務遂行に少なからず不安もありましたが、部門の協力もあり任を全うすることができました。内規を制定し実績を重ねた現在は、ウィズコロナの時代に対応した働き方と位置づけています。

理事会・評議員会の運営では、いわゆる3密回避のため、従来のあり方を変える必要に迫られました。本法人は、書面による意思表示を出席とみなす旨寄附行為に定めており、この規定を活用した運営を行いました。同時に実出席者の確保のためWeb会議導入の検討も進め、2021年1月には運用を始めました。しかし、円滑な議事進行に不可欠な通信環境の整備が課題として残りました。

2020年度は、本法人では初めてとなる中期計画（5年間）の初年度でしたが、感染拡大防止と日常業務との両立もあり、達成状況は厳しいものとなりました。主な事業の概要と進捗状況等は以下の通りです。

② 2020年度の主な事業計画及びその進捗状況

【法人全体】

事業名 ガバナンス体制の整備－事務局相互の有機的連携・各部門の人材育成

概要

- ・ 本法人4つの事務局が互いの業務内容を確認、改善点等を整理する。
- ・ 事務局における部門間人事交流実施上の課題を整理する。

進捗状況等

- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大により、事務局間の会合を持つことができなかった。
- ・ 三部門の事務局長等と話し合いの機会を持ち、部門側の現状認識を確認した。

事業名 安定した経営基盤の確保－必要な学生生徒数の確保・基本金組入前収支差額の確保

概要

- ・ 適切な広報を模索するため、各部門の広報の現状を把握し法人内で共有する。
- ・ 効果的な寄付金募集のあり方を検討するため、各部門による募集の現状を把握する。

進捗状況等

- ・ 広報、寄付金募集いずれも、法人本部内において課題の整理を行った。

事業名 三部門広報活動の支援－学園のブランド展開

概要

- ・ 法人及び三部門の諸資料の収集・整理を通じて桐朋シーズを把握する。

進捗状況等

- ・ 有益な資料の検索に必要な既存資料の整理を行った。

事業名 キャンパスの省エネ化促進－原単位5年度間平均1%以上低減維持

概要

- ・ 「環境自主行動計画」及び「管理標準」に基づきCO₂排出量の更なる削減に取り組む。

進捗状況等

- ・ 半期毎に使用状況を把握。5年度間平均原単位の変化は1.9%減を達成。

【法人本部】

事業名 ガバナンス体制の整備－理事会・評議員会の活性化・法人諸規程の改正・整備

概要

- ・ 理事会・評議員会で出席者の活発な意見を引き出す運営方法等を検討する。
- ・ 法令改正・所轄庁等の通知等を把握し、必要に応じ法人諸規程を改正・整備する。

進捗状況等

- ・ 活性化策は課題の共有に止まる。Web会議運用上の課題は今後の検討として残った。
- ・ 情報開示規程を改定し、情報公開規程を制定した。現行役員報酬額の妥当性を理事会で再確認した。在宅勤務・時差出勤制度を導入した。

事業名 安定した経営基盤の確保－予算管理の徹底と経費の削減

概要

- ・ 複数科目にわたり支出される経費は、予算執行状況を機能別・目的別に管理する。

進捗状況等

- ・ 「本部運営費」「会議運営費」「他部門との連携費」等に区分し、月次管理を実施した。

事業名 施設設備等の充実－安全点検・省エネ化推進

概要

- ・ 法人本部の入るポロニア館及び附属設備を点検、省エネ化を含む必要な整備を行う。

進捗状況等

- ・ 業者による安全点検を実施。女子部門建替計画の進捗状況を見て今後の対応を決定する。

4 その他

(1) 施設設備

①男子部門

○ 中高)体育館・第1体育室照明器具交換工事

- ・工事概要 2014年にLED照明に交換した器具が経年劣化により、照度が低下したため、器具を交換した。
- ・工事費用 2,970,000円
- ・施工業者 アイリスオーヤマ株式会社
- ・工事期間 2020年4月1日～2020年4月3日

○ 特別教室棟・屋根防水改修工事

- ・工事概要 経年劣化により、屋根塗装面の剥離があり、雨漏りの可能性があるため、屋根塗装面を改修した。
- ・工事費用 7,602,540円
- ・施工業者 株式会社 ベーシング
- ・工事期間 2021年2月20日～2021年3月31日

○ プロキシーサーバー更新

- ・工事概要 年次計画による定期更新。
- ・工事費用 2,062,830円
- ・施工業者 ウチダエスコ株式会社
- ・工事期間 2020年4月1日～2020年4月5日

○ 無線APリプレイス

- ・工事概要 年次計画による定期更新。
- ・工事費用 1,306,800円
- ・施工業者 ウチダエスコ株式会社
- ・工事期間 2020年4月1日～2020年4月5日

○ 小学校プール改修工事

- ・工事概要 プールサイドの塗装面に剥離があり、安全面を考慮して改修工事をした。
- ・工事費用 3,550,000円
- ・施工業者 株式会社 ベーシング
- ・工事期間 2020年4月17日～2020年5月8日

○ 中央監視装置更新

- ・工事概要 新校舎建築に導入した空調、照明を一括管理する装置が故障したため、更新を行った。
- ・工事費用 1,683,000円
- ・施工業者 2020年10月15日～2021年1月12日
- ・工事期間 パナソニックLSエンジニアリング株式会社

②女子部門

○ 井戸ポンプ交換工事

- ・工事概要 既設井戸ポンプは、設置後23年が経過し、絶縁抵抗値が規定値を下回っているとの指摘も数年前から受けていたため、交換工事を実施した。
- ・工事費用 7,040,000円
- ・施工業者 ドリコ株式会社
- ・工事期間 2020年7月29日～2020年8月8日

○ 短大Wi-Fi設置工事

- ・工事概要 新型コロナウイルス感染症対策の一環として、オンライン授業、分散授業あるいは公演のオンライン配信等を実施するためのWi-Fi環境を急遽整えた。
- ・工事費用 5,724,400円
- ・施工業者 株式会社内田洋行
- ・工事期間 2020年6月11日～2020年10月20日

○ 2項道路拡幅のためのセットバック工事

- ・工事概要 調布市からの指導を受け、隣接する2項道路（建築基準法第42条第2項）の拡幅工事を実施した。
- ・工事費用 9,917,120円
- ・施工業者 三友建設株式会社 株式会社野崎造園 株式会社コトブキ
- ・工事期間 2020年8月1日～2020年8月29日

○ 小学校中学年教室床研磨工事

- (1) 工事概要 3、4年生教室の床フローリングが経年により傷や汚れが著しくなったため、研磨・再塗装を実施した。
- (2) 工事費用 2,062,800円
- (3) 施工業者 三友建設株式会社
- (4) 工事期間 2020年3月23日～2020年4月8日

○ 短大演劇大道具倉庫改修

- ・工事概要 経年劣化により、雨漏りや木部の腐食が見受けられるプレハブ倉庫を、全面的に改修した。
- ・工事費用 2,400,200円
- ・施工業者 株式会社ベーシング
- ・工事期間 2020年4月27日～2020年5月12日

○ ネットワーク機器更新工事

- ・工事概要 更新時期を迎えた、ネットワーク機器（ルーター、レイヤーHub）の交換を実施した。
- ・工事費用 2,884,200円
- ・施工業者 株式会社内田洋行
- ・工事期間 2020年3月25日～2020年4月6日

③音楽部門

○ 桐朋学園音楽部門仙川キャンパス第2期・桐朋学園宗次ホール建築工事

- ・工事概要 世界初となるCLT（最先端木造合板）を使用した音楽ホール、レッスン室、教室で構成される新校舎建築。地上3階建 延床面積：約2,450㎡。
- ・工事費用 2,120,000,000円
- ・施工業者 前田建設・住友林業共同企業体 隈研吾建築都市設計事務所
- ・工事期間 2019年4月1日～2021年3月19日

(2) 学費及び補助金等

①男子部門

学費

(単位:円)

項目 学校名	入学金	進学科	建設資金	授業料 (月額)	施設拡充費 (月額)	生徒諸費 (月額)	入学検定料
桐朋高等学校	270,000	200,000	130,000	40,200	10,000	2,500	25,000
桐朋中学校	270,000		130,000	41,200	10,000	2,500	25,000 *
桐朋学園小学校	270,000		130,000	41,200	10,000	2,500	25,000

* 第1回と第2回の両方に出願する場合、同時出願の場合、38,000円

補助金

東京都経常費補助金	桐朋高等学校	344,734,100
	桐朋中学校	226,411,500
	桐朋学園小学校	115,998,400
東京都私立高校授業料軽減助成金		40,934,200
東京都結核予防費補助金		111,773
東京都都内生就学促進補助金		1,218,900
その他の補助金		18,440,878
合計		747,849,751

学園債 2020年4月～2021年3月までの受入額

桐朋高等学校	5,600,000
桐朋中学校	38,600,000
桐朋学園小学校	16,400,000
合計	60,600,000

②女子部門

学費

(単位:円)

学校名			入学金	施設拡充費	授業料	施設維持費	学生諸料	演習・実習費	入学検定料
桐朋学園 芸術 短期大学	芸術科	音楽専攻	420,000	170,000	1,114,000	80,000	32,000	45,000	35,000
		演劇専攻	330,000	170,000	989,000	70,000	32,000	120,000	35,000
	専攻科	音楽専攻	10,000		999,000	70,000	32,000	45,000	35,000
		演劇専攻	10,000		989,000	70,000	32,000	130,000	35,000

学 校 名	入学金 進学手続料	施設拡充費	授業料 (月額)	施設維持費 (月額)	生徒児童諸料 (月額)	教育充実費 (年額)	入学検定料
桐 朋 女 子 高 等 学 校	230,000 100,000	100,000	43,200	12,500	24,000	—	23,000
桐 朋 女 子 中 学 校	270,000	100,000	43,200	12,500	24,000	—	23,000
桐 朋 小 学 校	300,000	100,000	50,600	11,500	24,000	24,000	25,000
桐 朋 幼 稚 園	300,000	—	49,600	10,500	24,000	24,000	20,000

補助金

私立大学等経常費補助金	
桐朋学園芸術短期大学	56,965,000
東京都経常費補助金	578,935,100
桐朋女子高等学校	295,758,700
桐朋女子中学校	169,668,200
桐朋小学校	102,030,000
桐朋幼稚園	11,478,200
東京都私立高校授業料軽減助成金(高校)	23,013,200
東京都結核予防費補助金(短大・高校)	94,940
東京都都内生就学促進補助金(高校)	344,400
就学支援金事務費補助(高校)	492,000
外部検定試験料助成(高校)	2,835,000
授業料等減免費交付金(短大)	15,424,400
新型コロナウイルス感染症対策事業費助成(高校・中学・小学校)	2,868,000
その他の補助金	1,920,690
合計	682,892,730

教育環境整備寄付金 2020年4月～2021年3月までの受入額

桐朋女子高等学校	500,000
桐朋女子中学校	9,400,000
桐朋小学校	13,500,000
桐朋幼稚園	4,200,000
合計	27,600,000

③音楽部門

学費

(単位:円)

項目 学校名	入学金	運営維持費	授業料	施設設備費 (施設拡充費)	学生生徒 諸料	入学検定料
桐朋学園大学院大学	300,000	—	800,000	—	—	30,000
桐朋学園大学大学院	150,000 (本学卒業) 350,000 (他大学卒業)	100,000	1,200,000	150,000	—	30,000
桐朋学園大学	600,000	300,000 (各年次)	1,360,000	340,000	—	55,000
桐朋学園大学音楽学部 研究生	320,000 (外部のみ)	—	450,000	100,000 (外部生) 70,000 (内部生)	—	55,000 (新規外部) 5,000 (内部・継続外部)
桐朋学園大学音楽学部 ソリスト・ディプロマ	450,000	—	900,000	100,000	—	55,000
桐朋学園大学音楽学部 カレッジ・ディプロマ	200,000	—	900,000	100,000	—	55,000
桐朋女子高等学校 音楽科	200,000 (※1) 500,000 (※1以外)	300,000 (各年次)	820,800	127,600	13,800	52,500
桐朋オーケストラ・ アカデミー	108,000	—	648,000	—	—	16,500

※1 桐朋中学校及び桐朋女子中学校卒業

補助金

国庫補助金

(単位:円)

一般補助(大学院大学)	12,954,000
一般補助(大学)	86,881,000
特別補助(大学)	
新型コロナウイルス感染症対策支援	1,000,000
大学院における研究の充実	2,136,000
高等教育の修学支援新制度授業料等減免	15,037,400
令和2年度サステナブル建築物等先導事業(木造先導型)補助金	161,067,000
計	279,075,400

東京都補助金

一般補助(高校)	59,496,400
特別補助(高校)	7,184,000
都内生就学促進補助(高校)	447,000
結核予防費補助(高校)	21,210
結核予防費補助(大学)	44,777
私立学校等授業料軽減助成金(高校)	3,790,700
就学支援金学校事務費補助(高校)	392,000
学校保健特別対策事業費補助(高校)	34,000
計	71,410,087

富山市補助金

富山キャンパス運営費補助金	191,292,000
施設整備費補助金(大学院大学)	15,000,000
演奏会開催負担金(オーケストラ・アカデミー)	0
計	206,292,000

(3) 入学試験結果

①男子部門

桐朋高等学校・桐朋中学校・桐朋学園小学校

	募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
高等学校	一般 約50名	215	212	165	54
	内部 -	257	257	257	257
	計	472	469	422	311
中学校	一般 第1回 約120名	412	367	148	126
	一般 第2回 約60名	646	458	247	67
	内部 -	69	69	69	69
	計	1127	894	464	262
小学校	男子 72名	372	334	50	37
	女子	230	182	61	35
	計	602	516	111	72

②女子部門

桐朋学園芸術短期大学

() 男子内数

募集人数			出願者数	受験者数	合格者数	入学者数	
芸術科音楽専攻	総合型選抜A	I 期	30 (社会人含む)	16	16	16	16 (1)
		II 期		3	3	3	3 (0)
		III 期		5	5	5	5 (1)
		IV 期		4	4	3	3 (0)
	総合型選抜B	I 期	0	0	0	0 (0)	
		II 期	0	0	0	0 (0)	
		III 期	0	0	0	0 (0)	
	学校推薦型選抜		10	0	0	0	0 (0)
	一般	A	10	3	3	3	2 (0)
		B		2	2	2	2 (1)
	社会人	I 期	(総合型と同じ)	3	3	3	3 (0)
		II 期		2	2	2	2 (0)
III 期		2		2	2	1 (0)	
計			50	40	40	39	37 (3)
専修科内音楽専攻	ピアノ		—	12	12	12	12
	声楽		—	14	14	14	12
	フルート		—	4	4	4	4
	クラリネット		—	1	1	1	1
	サクソフォン		—	1	1	1	1
	トランペット		—	1	1	1	1
	ヴァイオリン		—	3	3	2	2
	チェロ		—	1	1	1	1
	ギター		—	1	1	1	1
	箏		—	2	2	2	2
計			—	40	40	39	37
演芸専攻	総合型選抜A		40	42	41	41	41 (8)
	総合型選抜B			12	11	11	11 (3)
	学校推薦型選抜		20	6	6	6	6 (0)
	一般選抜		10	15	13	13	8 (1)
	計		70	75	71	71	66 (12)
芸術科 計			120	115	111	110	103 (15)
専攻科	募集人数		20	23	22	22	22 (6)
	演劇専攻	内部 外部	9	9	9	9 (1)	
			1	1	1	1 (0)	
			計	40	33	32	32

桐朋女子高等学校（普通科）・桐朋女子中学校・桐朋小学校・桐朋幼稚園

	募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
高等学校（普）	推薦	約15	9	9	9
	帰国生	約20	8	8	7
	一般	約120	20	19	17
	内部進学	—	138	138	138
	計	—	175	174	171
中学校	一般(A入試)	約130	101	100	92
	Creative English	約10	13	13	8
	論理的思考力&発想力入試	約40	54	32	24
	一般(B入試) 2科	約40	82	29	19
	4科	—	63	34	31
	帰国生	約20	3	2	2
	計	約240	316	210	176
	内部進学	—	60	60	60
	計	—	376	270	236
小学校	男子	46	275	222	42
	女子	—	167	128	50
	計	46	442	350	92
	内部進学	—	23	23	23
	計	—	465	373	115
幼稚園	男子	26	41	40	15
	女子	—	28	27	22
	計	26	69	67	37

③音楽部門

調布・仙川キャンパス

学 校 ・ 学 部 名 等		募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
桐朋学園大学	大学院音楽研究科					
	修士課程	45	58	57	54	53
	博士後期課程	3	4	4	4	4
	小計	48	62	61	58	57
	音楽学部					
	音楽学科 一般	90	103	103	100	84
	指定校推薦一種	10	18	18	18	18
	指定校推薦二種	60	44	44	44	44
	一般推薦	15	12	12	11	11
	特待生	5	8	7	3	3
桐朋女子高等学校	飛び入学	若干名	0	0	0	0
	小計	180	185	184	176	160
	編入学	—	3	3	3	3
	特別転入学	—	10	9	8	8
	小計		51	51	51	49
ディプロマ・コース	音楽科 一般	90	46	46	46	44
	一般推薦	10	5	5	5	5
	小計		51	51	51	49
	ソリスト 新規	—	4	4	1	1
	継続	—	11	11	11	11
ディプロマ・コース	カレッジ 新規	—	23	23	22	22
	継続	—	29	29	29	28
	小計		67	67	63	62
	小計		67	67	63	62
研究生	[1]	—	16	16	16	16
	[2] 継続	—	24	24	24	22
	[3]	—	10	10	10	10
	小計		50	50	50	48
科目等履修生	一般	—	9	9	9	9
	修士修了後履修生	—	21	21	21	21
	小計		30	30	30	30
	計		458	455	439	417

富山キャンパス

桐朋学園大学院大学	音楽研究科演奏研究専攻	—	1	1	0	0
	修士課程 特待生	10	13	13	10	10
	一般					
科目等履修生	内部	—	3	3	3	3
	外部	—	0	0	0	0
	小計		3	3	3	3
桐朋 オーケストラ・アカデミー		—	142	140	19	19
	小計		142	140	19	19
	計		159	157	32	32

(4) 教職員研究研修

①男子部門

所属	氏 名	著作、論文等	出版社、学会誌名等	発表年月日
高校	岩崎 晴彦	〈内なる対話〉を育む文学教育——『高瀬舟』と『レ・ミゼラブル』	『教育』899号 (特集: 優生思想をこえる／コロナ禍の今、教員の働き方を問う) [旬報社]	2020年12月1日

②女子部門

◎部門内研修制度利用者

所属	個人・共同	氏名(代表者)	研 究 課 題
中高部	個 人	齊藤 秀和	・歌曲作品の演奏技術の習得 ・クラシック音楽全般における作曲家及び楽曲研究[大学院における研究] (2020.4.1～2021.3.31)
初等部	個 人	伊垣 尚人	・算数ワークショップ「数学者の時間」の研究 (2020.4.1～2021.3.31)
	個 人	東原 和郎	・教師の学び・発達・成長を促進する環境についての研究 (2020.4.1～2021.3.31)
	個 人	星野 俊樹	・性的マイノリティの存在を視野に入れた包括的性教育の実践を考える研究 ・学校空間におけるジェンダー不平等を作り上げる構造を見直す研究 (2020.4.1～2021.3.31)

◎著書、論文、演奏会・公演等

所属	氏 名	著作、論文、演奏会・公演等	出版社、学会誌名等 (ホール名、劇場名等)	発表年月日
短大部	高橋 宏幸	舞台評 「物語が流れる時間、空間にある身体 パル コステージ【FORTUNE フォーチュン】ティ ファクトリー【クリシェ】ゲッコーパレード【ぼくら は生れ変わった木の葉のように】」	『テアトロ』(972) p.36-38	2020年4月
		「戦争のための国家のイデオロギー装置 【安 らかな眠りを、あなたに】 MONO【その鉄塔 に男たちはいるという】」	『テアトロ』(974) p.44-45	2020年6月
		「「戒厳令」と「ペスト」 カミュから考える非常 事態宣言とコロナ」	『テアトロ』(977) p.14-15	2020年8月
		「三好十郎は、いま、どのように読まれるべき か 世田谷パブリックシアター【殺意】新国 立劇場【願いがかなうぐつぐつカクテル】」	『テアトロ』(978) p.42-44	2020年9月
		「「若さ」という現象とその演劇たち 東京夜光 【BLACK OUT】東京芸術劇場【赤鬼】 KAKUTA【ひとよ】」	『テアトロ』(980) p.75-77	2020年11月
		「栗山民也と鶴山仁の方法と技法」	『テアトロ』(981) p.14-16	2020年12月
		「「虚と実のあいだで」 ACO沖縄【島口 説】 ダムタイプ【2020】東京芸術劇場【真夏の夜 の夢】」	『テアトロ』(983) p.72-74	2021年1月
		「家族と国家をめぐる共同体について マキノ ノゾミ【東京原子核クラブ】ACO沖縄【洞ガマ 窟】ホリプロ【てにあまる】」	『テアトロ』(985) p.70-73	2021年3月

所属	氏 名	著作、論文、演奏会・公演等	出版社、学会誌名等 (ホール名、劇場名等)	発表年月日
短大部	高橋 宏幸	座談会 「2020年の日本演劇界 コロナ禍と日本演劇界」 江原 吉博, 小山内 伸, 高橋 宏幸, 杉山 弘, 林 あまり, 安井 武彦	『テアトロ』(984) p.5-25	2021年2月
		新聞評 書評「浅利慶太」	『週刊読書人』(第3362号)	2020年10月23日
		「2020 演劇書年末回顧」	『週刊読書人』(第3370号)	2020年12月18日
		「老いと若さが溶けあうなかで 渡辺えり『さるすべり〜コロナノコロ』」	『図書新聞』No.3477号	2021年1月1日
		「見えない演劇 「演劇になにができるか」から「演劇とはなにか」へ」	『図書新聞』No.3488号	2021年3月20日
		エッセイ 「節操なき転向者、あるいは無転向者としてなぜ、いま三好十郎なのか」	『アナキズム』	2021年2月号
中高部	岡野屋宏一	第9回玄潮会秋季書展、「禱」	セントラルミュージアム銀座	2020年9月2日
		第39回硯心会書展、「禱」	洋協アートホール	2020年9月24日
		第53回玄潮会書展、「辭」	東京都美術館	2021年2月13日
	内藤 芳宏	地理院地図サイト・Googleを使った地図学習の実践	地理教育49号	2020年6月30日
	吉崎亜由美	「授業のための世界地理《第5版》」地理教育研究会編(共著)	古今書院	2020年12月15日
		日本ESD学会第3回大会一般研究発表「高校地理AにおけるESDの実践と生徒の変容」	ZOOMオンライン	2021年2月21日

③音楽部門

「桐朋学園大学研究紀要」第46集

◎論文

大学	前原 恵美	常磐津節(子宝三番叟)の音楽分析
----	-------	------------------

◎研究ノート

大学	米田 潔弘	中世イタリアの聖女 ——ステルフィオレンティーノの聖ヴェルディアーナ——
	姫野 雅子	ピアノ演奏時の肩の不調と大幹部位の姿勢制御との関係の分析
	宮本 益光	声楽家のための日本語音声学
	杵鞭 広美	新しい学習指導要領に対応した音楽教育に関する考察 ——音楽科教師と音楽科教員養成課程の現状に着目して——
	沼口 隆	ベートーヴェンの「悲愴大ソナタ」op. 13再考(1) ——第1楽章緩徐導入部の意味について——

Ⅲ 財務の概要

1 決算の概要

(1) 貸借対照表

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

資産全体は、2016年度末287億7900万円から2020年度末287億500万円に、7400万円減少しました。

有形固定資産は、206億400万円から203億4300万円に2億6100万円減少しました。教育研究用及び管理用機器備品の計2億600万円の減少が主な要因であり、減価償却によるものです。2018年度末1億600万円、2019年度末13億2400万円だった建設仮勘定は、2020年度末0となりました。2020年度は音楽部門の建築が終了し、建物が2019年度より14億2600万円増加しています。

負債全体は、2016年度末77億3800万円から2020年度末67億7500万円に、9億6300万円減少しました。

固定負債は、59億4200万円から50億200万円に、9億4000万円減少しました。長期借入金6億6900万円の減少が主なものです。負債のうち有利子負債（長期借入金と短期借入金）は、30億3400万円から24億3200万円に減少しました。4年の間に19.8%減少しています。

(単位：百万円)

科 目	2016年度末	2017年度末	2018年度末	2019年度末	2020年度末
固定資産	24,973	24,943	24,494	24,972	24,924
有形固定資産	20,604	20,121	19,516	20,207	20,343
土地	1,541	1,541	1,541	1,541	1,541
建物	15,245	14,747	14,209	13,768	15,194
構築物	913	961	909	853	851
教育研究用機器備品	1,175	1,125	1,014	970	994
管理用機器備品	116	110	105	97	91
図書	1,615	1,638	1,632	1,654	1,672
建設仮勘定	0	0	106	1,324	0
特定資産	3,595	3,980	4,143	3,954	3,991
その他の固定資産	774	842	835	811	589
流動資産	3,806	3,770	3,961	3,245	3,781
現金預金	2,998	3,250	3,523	2,676	3,014
その他の流動資産	808	519	439	569	767
資産の部合計	28,779	28,713	28,455	28,217	28,705
固定負債	5,942	5,658	5,467	5,287	5,002
長期借入金	2,923	2,786	2,608	2,431	2,254
退職給与引当金	2,615	2,512	2,522	2,527	2,409
その他の固定負債	404	360	337	329	339
流動負債	1,796	1,800	1,765	1,692	1,773
短期借入金	111	136	178	178	178
前受金	1,082	1,021	982	994	956
その他の流動負債	602	642	604	520	639
負債の部合計	7,738	7,458	7,232	6,979	6,775
基本金	28,187	28,474	28,667	30,176	31,181
第1号基本金	27,122	27,409	27,602	29,111	30,116
第3号基本金	423	423	423	423	423
第4号基本金	642	642	642	642	642
繰越収支差額	△ 7,146	△ 7,219	△ 7,444	△ 8,937	△ 9,251
翌年度繰越収支差額	△ 7,146	△ 7,219	△ 7,444	△ 8,937	△ 9,251
純資産の部合計	21,041	21,255	21,223	21,238	21,930
負債及び純資産の部合計	28,779	28,713	28,455	28,217	28,705

イ) 財務比率の経年比較

(単位：%)

運用資産余裕比率	運用資産-外部負債 事業活動支出	-48.5	-38.1	-29.7	-39.2	-32.8
		(1.4)	(1.4)	(1.4)	(1.4)	
流動比率	流動資産 流動負債	211.9	209.4	224.4	191.7	213.2
		(246.1)	(239.5)	(238.1)	(241.6)	
総負債比率	総負債 総資産	26.8	25.9	25.4	24.7	23.6
		(14.4)	(14.4)	(14.3)	(14.4)	
前受金保有率	現金預金 前受金	276.9	318.3	358.5	269.1	315.2
		(371.8)	(380.1)	(376.2)	(374.2)	
積立率	運用資産 要積立額	57.5	59.7	59.8	49.9	49.3
		(72.6)	(72.4)	(72.7)	(71.9)	

※()の比率：令和2年度版『今日の私学財政 大学・短期大学編』所収の大学法人5ヵ年連続財務比率表より

(2) 資金収支計算書

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

前年度繰越支払資金を除いた資金収入は、2016年度126億5300万円から2020年度98億1600万円に、28億3700万円減少しました。学生生徒等納付金収入が減少を続けているためです。2020年度は2016年度から4億5100万円の減少となりました。

翌年度繰越支払資金を除いた資金支出は、2016年度124億3400万円から2020年度94億7700万円に、29億5700万円減少しました。この間、二度の校舎建築を行いました。施設関係支出が26億200万円から7億800万円に減少したことが大きな要因です。

翌年度繰越支払資金は、2016年度29億9800万円、2017年度32億5000万円、2018年度35億2300万円、2019年度26億7600万円、2020年度30億1400万円であり、工事費の負担で減少した2019年度を除けば、それほど大きな変化は見られません。

(単位：百万円)

科 目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
収入					
学生生徒等納付金収入	6,384	6,370	6,213	6,054	5,933
手数料収入	107	101	104	101	96
寄付金収入	67	36	42	99	891
補助金収入	2,048	1,849	1,841	1,917	1,992
国庫補助金収入	463	181	200	247	356
地方公共団体補助金収入	1,584	1,668	1,641	1,671	1,636
資産売却収入	10	15	10	0	200
付随事業・収益事業収入	7	0	1	2	0
受取利息・配当金収入	24	23	23	21	18
雑収入	262	354	271	273	269
借入金等収入	843	64	78	66	62
前受金収入	1,082	1,021	982	994	956
その他の収入	3,595	1,347	853	1,342	1,057
資金収入調整勘定	△ 1,776	△ 1,524	△ 1,391	△ 1,486	△ 1,659
計 ①	12,653	9,657	9,027	9,384	9,816
前年度繰越支払資金	2,779	2,998	3,250	3,523	2,676
収入の部合計	15,432	12,655	12,278	12,907	12,491
支出					
人件費支出	5,711	5,912	5,800	5,631	5,682
教育研究経費支出	1,773	1,516	1,537	1,611	1,786
管理経費支出	366	421	350	364	374
借入金等利息支出	3	10	11	13	12
借入金等返済支出	238	221	240	275	251
施設関係支出	2,602	139	129	1,356	708
設備関係支出	327	139	79	160	226
資産運用支出	924	694	169	446	125
その他の支出	640	536	590	549	481
資金支出調整勘定	△ 150	△ 182	△ 151	△ 174	△ 168
計 ②	12,434	9,404	8,755	10,232	9,477
当年度収支差額 (①－②)	219	253	272	△ 847	339
翌年度繰越支払資金	2,998	3,250	3,523	2,676	3,014
支出の部合計	15,432	12,655	12,278	12,907	12,491

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

教育活動による資金収入は、85億1300万円、86億7600万円、84億4100万円、83億4800万円、81億9400万円と減り続けています。2020年度は4年前より3億2000万円の減少となりました。2019年度と比べて1億5400万円の減少です。教育活動支出は、78億4800万円、78億4600万円、76億8700万円、75億8300万円と推移し、2020年度は78億1600万円に増えました。2019年度と比べて2億3300万円の増加です。2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大をうけ、学生生徒等納付金が大幅に減少する一方、教育研究経費は増加しました。後者は、授業のオンライン化への対応のため、給付金の支給や学費の減免を行ったりしたことによりです。この結果、教育活動資金収支差額は、2016年度以来最も小さい額の2億6000万円となりました。

施設整備等活動による資金収支差額は、9億8900万円、4億700万円、3億2600万円、11億5600万円、1億4200万円と、いずれも支出超過で推移しています。2019年度、2020年度の支出超過は、仙川キャンパス第二期工事に関係しています。2020年度には大口の寄付金を戴き、支出超過額は1億4200万円に抑えることができましたが、同工事への寄付金であることを考えると、2019年度と2020年度は、2年度間で収支の状況を把握しておく必要があるのではないかと考えます。

2020年度は、教育活動からの収入超過が2億6000万円と、2016年度以来最低額に落ち込みましたが、施設整備等活動での支出超過が、寄付金等のお陰もあって1億4200万円に抑えられたことにより、教育活動及び施設整備等活動を通して1億1800万円の資金残となりました。

さらに2020年度では、有価証券を売却する（その他の活動）などした結果、3億3900万円の支払資金の増となりました。

(単位：百万円)

科 目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	8,513	8,676	8,441	8,348	8,194
教育活動資金支出計	7,848	7,846	7,687	7,583	7,816
差引	665	830	755	765	378
調整勘定等	99	△ 100	2	△ 36	△ 118
A 教育活動資金収支差額	764	730	757	729	260
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	2,967	34	31	528	983
施設整備等活動資金支出計	3,738	744	359	1,617	1,040
差引	△ 771	△ 710	△ 328	△ 1,089	△ 57
調整勘定等	△ 218	303	2	△ 67	△ 85
B 施設整備等活動資金収支差額	△ 989	△ 407	△ 326	△ 1,156	△ 142
小計(A+B)	△ 225	323	431	△ 427	118
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	1,280	776	524	630	839
その他の活動資金支出計	837	846	682	1,053	619
差引	443	△ 70	△ 158	△ 422	220
調整勘定等	1	△ 0	△ 0	2	1
C その他の活動資金収支差額	444	△ 70	△ 158	△ 420	220
支払資金の増減額(小計+C)	219	253	272	△ 847	339
前年度繰越支払資金	2,779	2,998	3,250	3,523	2,676
翌年度繰越支払資金	2,998	3,250	3,523	2,676	3,014

ウ) 財務比率の経年比較

教育活動 資金収支差額比率	教育活動資金収支差額 教育活動収入	8.97 (12.6)	8.41 (12.5)	8.96 (12.6)	8.73 (12.0)	3.17
------------------	----------------------	----------------	----------------	----------------	----------------	------

※()の比率:令和2年度版『今日の私学財政 大学・短期大学編』所収の大学法人5ヵ年連続財務比率表より

(3) 事業活動収支計算書

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

教育活動収入の合計は、2016年度84億3100万円から2020年度80億3000万円に減少しています。学生生徒等納付金が毎年減少を続けており、新型コロナウイルスの影響も加わって、2020年度は50億円台にまで落ち込みました。そのような中、経常費等補助金は安定的に推移しています。教育活動支出の合計は、2016年度85億3000万円から2020年度82億9400万円に減少しています。人件費、管理経費は減少していますが、教育研究経費は、2016年度の23億7000万円が、2020年度24億8000万円となりました。新型コロナウイルス感染拡大防止を優先させた結果です。以上の結果、2020年度の教育活動収支差額は2億7900万円の支出超過となり、経常収支差額も2億7600万円の支出超過となりました。

基本金組入前当年度収支差額は、2016年度の6700万円から増減がありますが、2020年度は6億9200万円となりました。桐朋学園大学第二期仙川キャンパス整備事業に対する寄付金など特別収支の大幅な改善によるものです。

(単位：百万円)

科 目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
教育活動収支					
学生生徒等納付金	6,384	6,370	6,213	6,054	5,933
手数料	107	101	104	101	96
寄付金	38	34	41	98	85
経常費等補助金	1,717	1,818	1,811	1,820	1,816
付随事業収入	8	1	2	3	0
雑収入	177	149	127	214	100
収入計	8,431	8,472	8,297	8,291	8,030
人件費	5,731	5,603	5,666	5,579	5,400
教育研究経費	2,370	2,199	2,222	2,287	2,480
うち減価償却額	597	683	685	676	694
管理経費	426	490	431	413	426
うち減価償却額	61	72	81	72	78
徴収不能額等	3	1	0	1	3
支出計	8,530	8,293	8,319	8,279	8,309
収支差額	△ 99	180	△ 22	11	△ 279
教育活動外収支					
受取利息・配当金	21	21	20	19	16
その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
収入計	21	21	20	19	16
借入金等利息	3	10	11	13	12
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
支出計	3	10	11	13	12
収支差額	18	11	8	6	4
経常収支差額	△ 81	191	△ 13	17	△ 276
特別収支					
資産売却差額	0	0	0	0	20
その他の特別収入	366	40	38	103	990
収入計	366	40	38	104	1,010
資産処分差額	216	14	56	83	16
その他の特別支出	2	3	0	23	26
支出計	218	16	56	105	42
収支差額	148	23	△ 18	△ 2	968
基本金組入前当年度収支差額 (事業活動収支差額比率)	67 (0.76%)	214 (2.51%)	△ 32 (△0.38%)	15 (0.18%)	692 (7.64%)
基本金組入額合計	△ 886	△ 288	△ 230	△ 1,589	△ 1,006
当年度収支差額	△ 819	△ 74	△ 262	△ 1,574	△ 314
前年度繰越収支差額	△ 6,418	△ 7,146	△ 7,219	△ 7,444	△ 8,937
基本金取崩額	92	0	37	81	0
翌年度繰越収支差額	△ 7,146	△ 7,219	△ 7,444	△ 8,937	△ 9,251
(参考)					
事業活動収入計	8,818	8,533	8,355	8,413	9,056
事業活動支出計	8,751	8,319	8,387	8,398	8,364

イ) 財務比率の経年比較

人件費比率	人件費	67.8	65.9	68.1	67.1	67.1
	経常収入	(49.8)	(49.5)	(49.0)	(48.7)	
教育研究経費比率	教育研究経費	28	25.8	26.7	27.5	30.8
	経常収入	(39)	(39.6)	(40.0)	(40.4)	
管理経費比率	管理経費	5.0	5.7	5.1	4.9	5.2
	経常収入	(7.1)	(6.9)	(6.9)	(7.0)	
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額	0.7	2.5	-0.3	0.1	7.6
	事業活動収入	(4.7)	(4.6)	(4.0)	(3.8)	
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金	75.5	75.0	74.6	72.8	73.7
	経常収入	(51.8)	(51.5)	(51.5)	(51.0)	
経常収支差額比率	経常収支差額	-0.9	2.2	-0.1	0.2	-3.4
	経常収入	(3.8)	(3.7)	(3.7)	(3.6)	

※()の比率:令和2年度版『今日の私学財政 大学・短期大学編』所収の大学法人5ヵ年連続財務比率表より

2 主な収入の推移

(1) 学生生徒等納付金収入

2020年度は、新型コロナウイルスの影響により入学者数の確保がこれまで以上に大きな課題となりましたが、男子部門では、小中高全ての学校でほぼ前年度並みの生徒数を確保しました。

女子部門は2020年度、全ての学校において授業料を年額24,000円増額（短大演劇専攻のみ14,000円）しましたが、前年度を上回る学生生徒等納付金収入を確保できたのは、中学校、小学校及び幼稚園でした。

音楽部門は大学が17名減となり課題を残しました。他方、高校音楽科は対前年度7名の増となりました。

(単位：人、千円)

年 度		学生生徒等数					学生生徒等納付金収入				
		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
男子部門	桐朋高等学校	965	971	972	961	965	685,838	690,679	675,051	667,402	670,569
	桐朋中学校	794	789	778	788	797	613,023	622,488	621,157	625,739	631,689
	桐朋学園小学校	427	428	430	432	429	304,495	313,300	308,643	312,955	312,778
	計	2,186	2,188	2,180	2,181	2,191	1,603,355	1,626,467	1,604,851	1,606,096	1,615,037
女子部門	桐朋学園芸術短期大学	320	324	317	322	316	478,704	477,092	448,625	451,965	449,161
	桐朋女子高等学校（普通科）	763	720	636	553	513	523,716	477,099	408,818	359,444	356,541
	桐朋女子中学校	595	547	513	490	465	468,317	437,224	402,101	384,650	391,378
	桐朋小学校	435	434	429	432	433	367,335	363,629	360,974	367,289	377,004
	桐朋幼稚園	80	66	78	78	77	71,077	56,923	74,697	65,673	67,183
	計	2,193	2,091	1,973	1,875	1,804	1,909,149	1,811,967	1,695,215	1,629,021	1,641,267
音楽部門	桐朋学園大学院大学	21	22	21	20	19	19,400	21,900	19,400	19,700	18,000
	桐朋学園大学大学院	—	60	102	103	120	—	98,828	156,079	160,184	192,959
	桐朋学園大学音楽学部	763	748	717	682	665	1,770,459	1,718,216	1,667,337	1,593,319	1,553,352
	桐朋女子高等学校（音楽科）	202	198	180	157	164	293,368	279,523	252,521	220,435	238,273
	桐朋学園大学音楽学部附属 子供のための音楽教室	2,127	2,169	2,287	2,154	1,981	751,961	773,643	776,204	783,812	641,983
	桐朋学園大学院大学・桐朋学園大学 音楽学部附属桐朋オーケストラ・アカデミー	61	61	61	64	64	36,403	39,391	41,472	41,820	31,928
	計	3,174	3,258	3,368	3,180	3,013	2,871,590	2,931,502	2,913,013	2,819,270	2,676,495
法人合計		7,553	7,537	7,521	7,236	7,008	6,384,095	6,369,936	6,213,079	6,054,386	5,932,798

※ 学生生徒数は各年度5月1日現在である（但し、子供のための音楽教室は3月31日現在）。

(2) 入学検定料収入

2020年度の志願者数は、三部門の多くの学校で2019年度を下回る結果となりました。

男子部門は全体で32名の減少。高校では33名の減となりました。女子部門では、短大が71名の大幅減、高校普通科が24名の減となりました。音楽部門では、高校音楽科が16名の減となりました。

新型コロナウイルスは2020年度入試に大きな影響を及ぼしましたが、志願者の安定的確保が本法人の変わらぬ課題であるには違いありません。

(単位：人、千円)

年 度		志願者数（内部進学者を含む）					入学検定料収入				
		2017年度 入学者	2018年度 入学者	2019年度 入学者	2020年度 入学者	2021年度 入学者	2017年度 入学者	2018年度 入学者	2019年度 入学者	2020年度 入学者	2021年度 入学者
男子部門	桐朋高等学校	511	527	500	505	472	6,225	6,625	6,425	6,150	5,400
	桐朋中学校	1,207	1,126	1,174	1,153	1,154	26,946	25,188	26,185	26,030	25,008
	桐朋学園小学校	564	557	559	602	602	14,625	13,975	14,375	15,300	15,150
	計	2,282	2,210	2,233	2,260	2,228	47,796	45,788	46,985	47,480	45,558
女子部門	桐朋学園芸術短期大学	278	199	215	174	103	8,425	5,730	7,360	6,175	4,425
	桐朋女子高等学校（普通科）	248	214	182	199	175	1,403	1,196	1,012	1,196	1,127
	桐朋女子中学校	430	337	369	385	376	7,141	5,807	7,002	7,210	7,125
	桐朋小学校	356	353	370	412	442	8,950	8,925	10,125	10,550	11,925
	桐朋幼稚園	66	4歳児 77 3歳児 79	98	73	69	1,300	3,120	2,140	1,460	1,400
	計	1,378	1,259	1,234	1,243	1,165	27,219	24,778	27,639	26,591	26,002
音楽部門	桐朋学園大学院大学	17	11	13	14	17	520	320	470	360	490
	桐朋学園大学大学院音楽研究科	83	60	67	73	62	2,490	1,800	2,010	2,190	1,860
	桐朋学園大学音楽学部	212	196	187	187	182	15,593	15,135	14,062	10,478	10,050
	桐朋女子高等学校（音楽科）	56	56	55	67	51	2,940	2,993	2,888	3,518	2,678
	桐朋学園大学音楽学部附属 子供のための音楽教室	—	—	—	—	—	3,091	3,075	2,968	2,844	2,492
	桐朋学園大学院大学・桐朋学園大学 音楽学部附属桐朋オーケストラ・アカデミー	104	112	128	135	142	1,102	1,210	1,382	2,228	2,343
	計	472	435	450	476	454	25,735	24,532	23,779	21,617	19,912
法人合計		4,132	3,904	3,917	3,979	3,847	100,750	95,098	98,403	95,688	91,472

※ 志願者数は、転編入を除き、内部進学者を含む

(3) 補助金収入

ア) 補助金部門別交付額の推移

本法人に対する補助金総額は、2016年度20億4800万円、2017年度18億4900万円、2018年度18億4100万円、2019年度19億1700万円、2020年度19億9200万円と、増減はあるものの、安定的に推移しています。

男子部門への補助金は、6億6000万円、7億3000万円、7億2900万円、7億5600万円と推移し、2020年度は7億4800万円に、2019年度から800万円減少しました。

女子部門への補助金は、6億9000万円、7億700万円、6億8200万円、7億600万円と推移し、2020年度は6億8800万円に、2019年度から1900万円減少しました。

音楽部門への補助金は、6億9800万円、4億1200万円、4億3100万円、4億5500万円と推移し、2020年度は5億5600万円に、2019年度から1億100万円増加しました。音楽部門の2020年度の補助金には、仙川キャンパスの第二期工事に伴う補助金1億6100万円が含まれています。

(単位：千円)

部門・学校\年度		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
男子部門	桐朋高等学校	342,838	388,595	388,358	404,992	396,386
	桐朋中学校	212,219	224,773	223,238	234,596	233,071
	桐朋学園小学校	104,773	116,516	117,258	116,155	118,393
	計	659,830	729,885	728,854	755,743	747,850
女子部門	桐朋学園芸術短期大学	44,475	49,961	53,127	55,604	72,555
	桐朋女子高等学校（普通科）	321,360	347,879	334,899	349,146	325,883
	桐朋女子中学校	208,034	184,824	175,822	180,848	172,445
	桐朋小学校	104,650	111,539	106,424	110,052	104,210
	桐朋幼稚園	11,428	12,479	11,229	10,842	12,680
	計	689,947	706,682	681,502	706,492	687,774
音楽部門	桐朋学園大学院大学	106,145	107,713	120,698	115,749	130,382
	桐朋学園大学大学院	—	0	0	0	0
	桐朋学園大学音楽学部	406,803	124,150	135,081	158,635	266,166
	桐朋女子高等学校（音楽科）	69,818	71,489	71,575	71,091	71,365
	桐朋学園大学音楽学部附属 子供のための音楽教室	0	14	0	0	0
	桐朋学園大学院大学・桐朋学園大学 音楽学部附属桐朋オーケストラ・アカデミー	115,094	108,677	103,631	109,505	88,319
	計	697,859	412,042	430,986	454,981	556,232
法人合計		2,047,637	1,848,609	1,841,342	1,917,216	1,991,855

イ) 補助金種類別交付額の推移

私立大学等経常費補助金は、2016年度以降1億4800万円、1億7000万円、1億8600万円、1億7700万円と推移してきましたが、2020年度は1億6000万円となり、2019年度と比べて1700万円の減少となりました。特別補助で1100万円減少したことが影響しています。一方その他の施設設備に係る補助金は、1億2600万円増加しました。仙川キャンパス第二期工事で音楽部門が「サステナブル建築物等先導事業(木造先導型)補助金」を獲得したことによります。

東京都の経常費補助金は、2016年度は13億3000万円、2017年度は13億5100万円、2018年度は13億3000万円、2019年度は13億4700万円と推移し、2020年度は13億3300万円でした。在籍する児童生徒数、教職員数及び評価係数の影響を受け、年度によって増減はありますが、大きな影響もなく推移しています。

(単位：千円)

(単位：千円)

補助金の種類\年度			2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
国庫補助金	経私立大学等 常費補助金	一般補助	128,400	152,527	164,236	161,223	155,800
		特別補助	19,295	17,810	22,255	15,370	4,136
		計	147,695	170,337	186,491	176,593	159,936
	その他（施設設備補助金等）		315,580	10,675	13,749	70,086	196,410
	計		463,275	181,012	200,240	246,679	356,346
地方公共団体補助金	経東京都 常費補助金	一般補助	1,263,097	1,288,226	1,268,500	1,289,176	1,278,316
		特別補助	66,757	63,245	61,828	58,171	54,444
		計	1,329,854	1,351,470	1,330,327	1,347,347	1,332,760
	私立高等学校授業料軽減補助金		23,878	67,676	78,554	76,168	67,738
	結核予防費都費補助金		317	302	285	269	273
	私立高等学校都内生就学促進補助金		2,048	2,672	1,592	1,731	2,010
	富山市補助金		210,000	210,000	213,000	214,000	205,746
	その他（施設設備補助金等）		18,265	35,477	17,343	31,022	26,983
	計		1,584,362	1,667,597	1,641,102	1,670,537	1,635,510
法人合計			2,047,637	1,848,609	1,841,342	1,917,216	1,991,855

3 その他

(1) 有価証券の状況

(単位：千円)

区分	銘柄	数量	帳簿価額	時価	表示科目
債券	国債	1口	59,851	61,343	特定資産(江戸奨学特定資産)
債券	国債	1口	12,693	13,480	有価証券(生江義男先生記念教育研究基金)
債券	国債	1口	31,695	33,701	うち11,000千円は第3号基本金引当特定資産
債券	国債	1口	103,592	114,172	うち100,000千円は第3号基本金引当特定資産
債券	国債	1口	105,071	116,399	うち100,000千円は第3号基本金引当特定資産
債券	国債	1口	21,550	24,610	有価証券
債券	国債	1口	49,933	55,420	有価証券
債券	国債	1口	207,415	228,220	第3号基本金引当特定資産
債券	国債	1口	20,494	22,534	有価証券
債券	大阪府公債	1口	49,982	50,440	有価証券
債券	名古屋市公債	1口	105,171	115,710	有価証券
債券	大阪市公債	1口	102,762	112,570	有価証券
株式	調布エフエム放送(株)	10口	201		有価証券
株式	新日本製鐵(株)	1650口	896		有価証券
株式	東京電力(株)	3897口	811		有価証券
出資証券	多摩中央信用金庫	2000口	100		有価証券
計			872,216	948,600	

(2) 借入金の状況

(単位：千円)

借入先	借入残高	利率	返済期限	担保等
日本私立学校振興・共済事業団	1,277,650	0.50%	2033年3月～2034年3月	校地
日本私立学校振興・共済事業団	975,240	0.38% 0.50%	2035年9月～2036年9月	校地
東京都私学財団	1,300	0.00%	2023年3月～2024年4月	なし
計	2,254,190			

(3) 学校債の状況

(単位：千円)

発行年度	本年度末残高	利率	償還期限	摘要
2016年度	55,800	0.00%	2022年3月	
2017年度	85,000	0.00%	2023年3月	
2018年度	63,500	0.00%	2024年3月	
2019年度	71,600	0.00%	2025年3月	
2020年度	58,200	0.00%	2026年3月	
2021年度	54,400	0.00%	2027年3月	
計	388,500			

(4) 寄付金の状況

(単位：千円)

種類	寄付者	金額	摘要
桐朋奨学会基金への寄付	新入生保護者	6,915	318口
奨学会への寄付	小学校新入生保護者、短大保証人	1,756	196口
生徒特別教育活動基金への寄付	中高新入生保護者	585	117口
帰国子女教育活動基金への寄付	中高帰国生(新入生)保護者	900	45口
備品購入寄付	八南女子父母会	556	かさ立て代
新型コロナウイルス感染対策への寄付	中高69期同窓会山吹	200	
寄付講座への寄付	ユーラシア財団 from Asia	3,000	
一般寄付	長木健悟様、薄井紀子様他	600	
一般寄付	卒業生、在学生保護者他	34,481	341口
一般寄付	—	230	2口
緑と文化基金への寄付	桐朋中学・高等学校卒業生PTA	508	
宗次徳二桐朋学園大学大学院特待奨学金寄付金	(特非)イロー・エンジェル理事長 宗次徳二様	6,000	1,200千円×5名
桐朋学園音楽部門留学支援奨学金「江崎スカラシップ」寄付金	江崎正道様	5,000	5,000千円×1名
コロナ対応緊急給付奨学金寄付金(1回目)	(特非)イロー・エンジェル理事長 宗次徳二様	3,630	30千円×121名
コロナ対応緊急給付奨学金寄付金(2回目)	宗次徳二様	3,500	700千円×5名
桐朋学園宗次ホール建築費用支援寄付金	宗次徳二様	800,000	—
桐朋学園音楽部門70周年記念基金寄付金	—	7,010	2口
桐朋学園仙川新校舎楽器・設備募金寄付金	戸塚亮一様	6,000	2口
若手音楽家支援プロジェクト寄付金	—	483	6口
特別寄付金(桐朋学園宗次ホール)	株式会社龍角散	10,000	1口
現物寄付(図書)	桐朋中学・高等学校PTA	727	
現物寄付(かさ立て・タブレット保管庫・図書)	中高77期卒業生、小2019卒業生保護者他	618	
現物寄付(図書)	—	1,164	402点
計		893,863	

(5) 関連当事者との取引の状況

(単位:千円)

役員・法人等名称	資本金又は出資金	取引の内容	取引金額
理事 鈴木 正義	—	本法人の東京都私学財団からの借入金債務（入学支度金）に対する連帯保証人である。保証料の支払いはない。	1,300

4 経営上の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応

(1) 男子部門

新型コロナウイルス感染症の影響により、授業はオンラインでの実施を迫られた。また、校外学習などを中心とする各種行事も中止せざるを得ず、男子部門各校が大切にしている本物に触れる体験を通じて学ぶ機会が次々と奪われていった。これらのことは、財務面に大きな影響を与えることはなかったが、我々の教育の真価が問われることとなった。

また、児童・生徒募集のための学校説明会等も対面での実施ができなかったことによる志願者数への影響が懸念された。中高受験では、受験生が受験校を絞る傾向にあったことから、志願者数を若干減らしたものの、歩留まりは概ね例年通りであったことから、入学者数を安定的に確保することができた。

この新型コロナウイルス感染症の影響により、少子化がより一層早まることが考えられている。クラス定員減などの計画を早めに決定するとともに、加速化しているICT化への対応も踏まえ、今後必要となってくる収入の確保策を早急に検討することが必要とされている。

(2) 女子部門

2020年度は年度当初から、新型コロナウイルスの影響により経営面でも今までにない対応が求められた。5月にはオンライン授業の導入に伴う各家庭での環境整備を目的として、全在学生に一律56,000円の給付を行った。この総額約1億円の支出増については法人本部からの1億円の補助金により、収支への影響を受けずに済むことができた。また、保護者の家計状況の急変、悪化により各学校とも奨学金の申請が例年になく多かったことや、ウイルス対策のための消毒に関わる経費や非接触型の体温計、パーティションの購入等、特別な支出が多かった一年であった。

財務全般を見ると、ここ数年は主に短大、中高の在籍数の減少に伴う学納金収入の減少と教職員の人員減による人件費の減少にタイミングのずれが生じることで、事業活動収支、繰越支払資金とも厳しい状況が続くことが予想される。寄付金募集のより積極的な働きかけや戦略的な補助金の獲得等、学納金以外での収入増をいかに図るかが引き続き、課題として挙げられる。

また、2020年度は新型コロナウイルスの影響もあり、検討が予定どおり、進まなかった校舎建築についても、女子部門全体の基本構想を確認し、具体的な計画の策定へと進めていきたいと考えている。

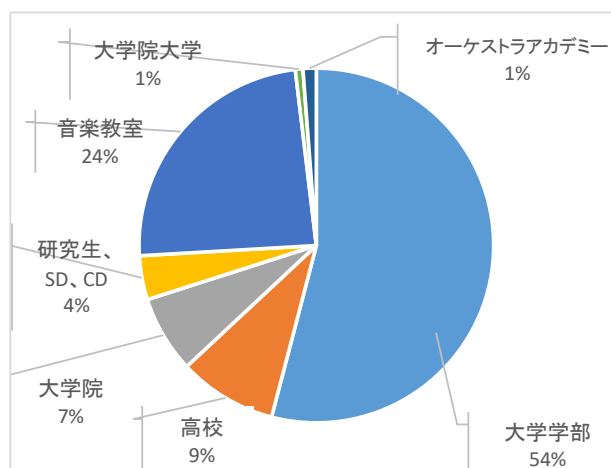
(3) 音楽部門

2020年度、音楽部門の経営に影響を与えた最も大きな要因は、新型コロナウイルス感染症であることは言を俟たない。音楽部門の各学校のうち、音楽教室がその影響を最も強く受けた。

学校の経営においては学生生徒納付金が収入の柱であるが、2020年度決算、資金収支計算書の「教育活動」収入3,265,482千円のうち学生生徒等納付金収入は2,676,495千円であり、全体の82%近くを占めている。さらに、その学生生徒等納付金収入のうち、音楽教室の生徒からの納付金は641,983千円であり、これは学生生徒等納付金の約24%であり、（下表、及びグラフ参照）2019年度から141,829千円減少した。

学生生徒等納付金における各学校の比率

大学学部	54%
高校	9%
大学院	7%
研究生、SD、CD	4%
音楽教室	24%
大学院大学	0.7%
オーケストラアカデミー	1.2%



音楽部門は現在、音楽教室の運営状況をこれまで以上に把握するように努めており、音楽教室の経営が安定するよう、今後も努力する。

コロナ禍の中であって、大学学部と高校入学者に関して2020年度は、概ね当初の見込み通りの新入生を確保できた。しかし、いずれも定員充足率は100%に達しておらず、その充足は常に意識している課題である。その意味では、2021年3月に竣工した新校舎は桐朋学園宗次ホールというこれまで音楽部門が手にしたことのない、新しい教育の場であり、新しい教育を展開するための強力な手段を手にしたと言える。今回の悪疫が収束し、終息した暁には、それをフルに活用した教育を進め学校の魅力を高め、それを広報発信して、志願者の増加に繋がたいと考えている。